



インターフェイスおよびハードウェア コマンド

- client vlan (3 ページ)
- debug ilpower (4 ページ)
- debug interface (6 ページ)
- debug lldp packets (7 ページ)
- debug nmsp (8 ページ)
- debug platform poe (9 ページ)
- duplex (10 ページ)
- errdisable detect cause (12 ページ)
- errdisable recovery cause (15 ページ)
- errdisable recovery interval (18 ページ)
- interface (19 ページ)
- interface range (21 ページ)
- ip mtu (22 ページ)
- ipv6 mtu (24 ページ)
- lldp (インターフェイス コンフィギュレーション) (26 ページ)
- logging event power-inline-status (28 ページ)
- mdix auto (29 ページ)
- mode (電源スタックの設定) (30 ページ)
- network-policy (32 ページ)
- network-policy profile (グローバル コンフィギュレーション) (33 ページ)
- nmsp attachment suppress (35 ページ)
- power efficient-ethernet auto (36 ページ)
- power-priority (37 ページ)
- power inline (39 ページ)
- power inline police (43 ページ)
- power supply (46 ページ)
- show CAPWAP summary (48 ページ)

- [show controllers cpu-interface](#) (49 ページ)
- [show controllers ethernet-controller](#) (51 ページ)
- [show controllers utilization](#) (61 ページ)
- [show eee](#) (63 ページ)
- [show env](#) (67 ページ)
- [show errdisable detect](#) (70 ページ)
- [show errdisable recovery](#) (72 ページ)
- [show interfaces](#) (74 ページ)
- [show interfaces counters](#) (79 ページ)
- [show interfaces switchport](#) (82 ページ)
- [show interfaces transceiver](#) (86 ページ)
- [show mgmt-infra trace messages ilpower](#) (89 ページ)
- [show mgmt-infra trace messages ilpower-ha](#) (91 ページ)
- [show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe](#) (92 ページ)
- [show network-policy profile](#) (94 ページ)
- [show platform CAPWAP summary](#) (95 ページ)
- [show power inline](#) (96 ページ)
- [show stack-power](#) (102 ページ)
- [show system mtu](#) (103 ページ)
- [show wireless interface summary](#) (104 ページ)
- [speed](#) (105 ページ)
- [stack-power](#) (107 ページ)
- [switchport backup interface](#) (109 ページ)
- [switchport block](#) (112 ページ)
- [system mtu](#) (114 ページ)
- [voice-signaling vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (115 ページ)
- [voice vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (117 ページ)
- [wireless ap-manager interface](#) (119 ページ)
- [wireless exclusionlist](#) (120 ページ)
- [wireless linktest](#) (121 ページ)
- [wireless management interface](#) (122 ページ)
- [wireless peer-blocking forward-upstream](#) (123 ページ)

client vlan

WLAN インターフェイスまたはインターフェイス グループを設定するには、**clientvlan** コマンドを使用します。WLAN インターフェイスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

client vlan *interface-id-name-or-group-name*
no client vlan

| 構文の説明 | <i>interface-id-name-or-group-name</i> インターフェイス ID、名前、または VLAN グループ名。インターフェイス ID は、複数桁で指定することもできます。 | | | | |
|---------------------|---|------|------|---------------------|-----------------|
| コマンド デフォルト | デフォルト インターフェイスが設定されています。 | | | | |
| コマンド モード | WLAN の設定 | | | | |
| コマンド履歴 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE 3.2SE、</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table> | リリース | 変更内容 | Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 |
| リリース | 変更内容 | | | | |
| Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 | | | | |

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、WLAN をディセーブルにする必要があります。WLAN をディセーブルにする方法の詳細については、「関連コマンド」の項を参照してください。

次に、WLAN のクライアント VLAN をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# wlan wlan1
Switch(config-wlan)# client vlan client-vlan1
Switch(config-wlan)# end
```

次に、WLAN 上のクライアント VLAN をディセーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# wlan wlan1
Switch(config-wlan)# no client vlan
Switch(config-wlan)# end
```

関連トピック

[wlan](#)

debug ilpower

電源コントローラおよびPower over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug ilpower** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ilpower {cdp|controller|event|ha|ipc|police|port|powerman|registries| scp |sense|upoe}
no debug ilpower {cdp|controller|event|ha|ipc|police|port|powerman|registries| scp |sense|upoe}

構文の説明

| | |
|-------------------|---|
| cdp | PoE Cisco Discovery Protocol (CDP) デバッグ メッセージを表示します。 |
| controller | PoE コントローラ デバッグ メッセージを表示します。 |
| event | PoE イベント デバッグ メッセージを表示します。 |
| ha | PoE ハイ アベイラビリティ メッセージを表示します。 |
| ipc | PoE Inter-Process Communication (IPC) デバッグ メッセージを表示します。 |
| police | PoE police デバッグ メッセージを表示します。 |
| port | PoE ポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。 |
| powerman | PoE 電力管理デバッグ メッセージを表示します。 |
| registries | PoE レジストリ デバッグ メッセージを表示します。 |
| scp | PoE SCP デバッグ メッセージを表示します。 |
| sense | PoE sense デバッグ メッセージを表示します。 |
| upoe | Cisco UPOE デバッグ メッセージを表示します。 |

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|----------------------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |
| Cisco IOS XE 3.3SE | upoe キーワードが追加されました。 |

使用上のガイドライン

このコマンドは、PoE 対応スイッチだけでサポートされています。

あるスイッチ スタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、アクティブ スイッチでのみイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用して、アクティブ スイッチからのセッションを開始できます。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

debug interface

インターフェイス関連アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug interface** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug interface {*interface-id*|counters {exceptions|protocol memory}|states}
no debug interface {*interface-id*|counters {exceptions|protocol memory}|states}

構文の説明

| | |
|------------------------|---|
| <i>interface-id</i> | 物理インターフェイスの ID。タイプ スイッチ番号/モジュール番号/ポート (例 : gigabitethernet 1/0/2) によって識別される指定された物理ポートのデバッグ メッセージを表示します。 |
| counters | カウンタ デバッグ情報を表示します。 |
| exceptions | インターフェイス パケットおよびデータ レート統計情報の計算中に回復可能な例外条件が発生したときにデバッグ メッセージを表示します。 |
| protocol memory | プロトコル カウンタのメモリ操作のデバッグ メッセージを表示します。 |
| states | インターフェイスの状態が移行するときに中間のデバッグ メッセージを表示します。 |

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

undebug interface コマンドは、**no debug interface** コマンドと同じです。

あるスイッチ スタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、アクティブ スイッチでのみイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用して、アクティブ スイッチからのセッションを開始できます。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

debug lldp packets

Link Layer Discovery Protocol (LLDP) パケットのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug lldp packets** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug lldp packets
no debug lldp packets

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|---|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

undebug lldp packets コマンドは、**no debug lldp packets** コマンドと同じです。

あるスイッチ スタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、アクティブ スイッチでのみイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用して、アクティブ スイッチからのセッションを開始できます。

debug nmsp

スイッチの Network Mobility Services Protocol (NMSP) のデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug nmsp** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug nmsp {all|connection|detail|error|event|message {rx|tx}|packet} [switch switch-number]
no debug nmsp {all|connection|detail|error|event|message {rx|tx}|packet} [switch switch-number]
```

構文の説明

| | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| all | すべての NMSP デバッグ メッセージを表示します。 |
| connection | NMSP 接続イベントのデバッグ メッセージを表示します。 |
| detail | NMSP の詳細なデバッグ メッセージを表示します。 |
| error | NMSP エラー メッセージのデバッグ情報を表示します。 |
| event | NMSP イベントのデバッグ メッセージを表示します。 |
| message | NMSP メッセージのデバッグ情報を表示します。 |
| rx | NMSP 受信メッセージのデバッグ情報を表示します。 |
| tx | NMSP 送信メッセージのデバッグ情報を表示します。 |
| packet | NMSP パケット イベントのデバッグ メッセージを表示します。 |
| switch switch-number | (任意) NMSP デバッグ情報を表示するスイッチ番号を指定します。 |

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|-----------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン **undebug nmsp** コマンドは、**no debug nmsp** コマンドと同じです。

あるスイッチ スタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、アクティブ スイッチでのみイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用して、アクティブ スイッチからのセッションを開始できます。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

debug platform poe

Power over Ethernet (PoE) ポートのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform poe** コマンドを使用します。デバッグを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform poe [{error|info}] [switch switch-number]
no debug platform poe [{error|info}] [switch switch-number]
```

| | | |
|------------|--|---|
| 構文の説明 | error | (任意) PoE 関連エラーのデバッグ メッセージを表示します。 |
| | info | (任意) PoE 関連情報のデバッグ メッセージを表示します。 |
| | switch <i>switch-number</i> | (任意) スタック メンバを指定します。このキーワードは、スタック対応スイッチでのみサポートされています。 |
| コマンド デフォルト | デバッグはディセーブルです。 | |
| コマンド モード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |
| 使用上のガイドライン | undebug platform poe コマンドは、 no debug platform poe コマンドと同じです。 | |

duplex

ポートのデュプレックスモードで動作するように指定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **duplex** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

duplex {**auto**|**full**|**half**}
no duplex {**auto**|**full**|**half**}

構文の説明

auto 自動によるデュプレックス設定をイネーブルにします。接続されたデバイスモードにより、ポートが自動的に全二重モードか半二重モードで動作すべきかを判断します。

full 全二重モードをイネーブルにします。

half 半二重モードをイネーブルにします（10 または 100 Mb/s で動作するインターフェイスに限る）。1000 または 10,000 Mb/s で動作するインターフェイスに対して半二重モードを設定できません。

コマンドデフォルト

ギガビットイーサネットポートに対するデフォルトは **auto** です。

10 ギガビットイーサネットポートではデュプレックスモードを設定できません。常に **full** です。

二重オプションは、1000BASE-x または 10GBASE-x (-x は -BX、-CWDM、-LX、-SX、または -ZX) SFP モジュールではサポートされていません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ギガビットイーサネットポートでは、接続装置がデュプレックスパラメータの自動ネゴシエーションを行わない場合にポートを **auto** に設定すると、**full** を指定するのと同じ効果があります。



(注) デュプレックスモードが **auto** で接続されている装置が半二重で動作している場合、半二重モードはギガビットイーサネットインターフェイスでサポートされます。ただし、これらのインターフェイスを半二重モードで動作するように設定することはできません。

特定のポートを全二重または半二重のいずれかに設定できます。このコマンドの適用可能性は、スイッチが接続されているデバイスによって異なります。

両方のラインの終端が自動ネゴシエーションをサポートしている場合、デフォルトの自動ネゴシエーションを使用することを強く推奨します。片方のインターフェイスが自動ネゴシエーションをサポートし、もう片方がサポートしていない場合、両方のインターフェイス上でデュプレックスと速度を設定し、サポートされている側で **auto** の設定を使用してください。

速度が **auto** に設定されている場合、スイッチはもう一方のリンクの終端にある装置と速度設定についてネゴシエートし、速度をネゴシエートされた値に強制的に設定します。デュプレックス設定はリンクの両端での設定が引き継がれますが、これにより、デュプレックス設定に矛盾が生じることがあります。

デュプレックス設定を行うことができるのは、速度が **auto** に設定されている場合です。

**注意**

インターフェイス速度およびデュプレックスモードの設定を変更すると、再設定中にインターフェイスがシャットダウンし、再びイネーブルになる場合があります。

設定を確認するには、**show interfaces** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、インターフェイスを全二重動作に設定する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# duplex full
```

関連トピック

[show interfaces](#) (74 ページ)

errdisable detect cause

特定の原因またはすべての原因に対して errdisable 検出をイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **errdisable detect cause** コマンドを使用します。errdisable 検出機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable detect cause {all|arp-inspection|bpduguard shutdown
vlan|dhcp-rate-limit|dtp-flap|gbic-invalid|inline-power|l2ptguard|link-flap|loopback|pagp-flap|pppoe-ia-rate-limit
|security-violation shutdown vlan|sfp-config-mismatch}
no errdisable detect cause {all|arp-inspection|bpduguard shutdown
vlan|dhcp-rate-limit|dtp-flap|gbic-invalid|inline-power|l2ptguard|link-flap|loopback|pagp-flap|pppoe-ia-rate-limit
|security-violation shutdown vlan|sfp-config-mismatch}
```

構文の説明

| | |
|------------------------------------|---|
| all | すべての errdisable の原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。 |
| arp-inspection | ダイナミック アドレス解決プロトコル (ARP) インспекションのエラー検出をイネーブルにします。 |
| bpduguard shutdown vlan | BPDU ガードで VLAN ごとに errdisable をイネーブルにします。 |
| dhcp-rate-limit | Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) スヌーピング用のエラー検出をイネーブルにします。 |
| dtp-flap | ダイナミック トランッキングプロトコル (DTP) フラップのエラー検出をイネーブルにします。 |
| gbic-invalid | 無効なギガビット インターフェイス コンバータ (GBIC) モジュール用のエラー検出をイネーブルにします。 (注) このエラーは、無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールを意味します。 |
| inline-power | Power over Ethernet (PoE) の errdisable 原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。 (注) このキーワードは、PoE ポートを備えたスイッチでのみサポートされています。 |
| l2ptguard | レイヤ 2 プロトコル トンネルの errdisable 原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。 |
| link-flap | リンクステートのフラップに対して、エラー検出をイネーブルにします。 |
| loopback | 検出されたループバックに対して、エラー検出をイネーブルにします。 |

| | |
|---|---|
| pagp-flap | ポート集約プロトコル (PAgP) フラップの errdisable 原因のエラー検出をイネーブルにします。 |
| pppoe-ia-rate-limit | PPPoE 中継エージェントのレート制限 errdisable 原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。 |
| security-violation shutdown vlan | 音声認識 IEEE 802.1x セキュリティをイネーブルにします。 |
| sfp-config-mismatch | SFP 設定の不一致によるエラー検出をイネーブルにします。 |

コマンド デフォルト 検出はすべての原因に対してイネーブルです。VLAN ごとの errdisable を除くすべての原因について、ポート全体をシャットダウンするように設定されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|-----------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン 原因 (link-flap、dhcp-rate-limit など) は、errdisable ステートが発生した理由です。原因がインターフェイスで検出された場合、インターフェイスは errdisable ステートとなり、リンクダウン ステートに類似した動作ステートとなります。

ポートが errdisable になっているときは事実上シャットダウンし、トラフィックはポートで送受信されません。ブリッジプロトコル データ ユニット (BPDU) ガード、音声認識 802.1x セキュリティ、およびポートセキュリティ機能の場合は、違反の発生時にポート全体をシャットダウンする代わりに、ポートで問題となっている VLAN のみをシャットダウンするようにスイッチを設定できます。

errdisable recovery グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力して、原因の回復メカニズムを設定する場合は、すべての原因がタイムアウトになった時点で、インターフェイスは errdisable ステートから抜け出して、処理を再試行できるようになります。回復メカニズムを設定しない場合は、まず **shutdown** コマンドを入力し、次に **no shutdown** コマンドを入力して、インターフェイスを手動で errdisable ステートから回復させる必要があります。

設定を確認するには、**show errdisable detect** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、リンクフラップ errdisable 原因に対して errdisable 検出をイネーブルにする方法を示します。

```
Switch(config)# errdisable detect cause link-flap
```

次のコマンドでは、VLAN ごとの errdisable ステートで BPDU ガードをグローバルに設定する方法を示します。

```
Switch(config)# errdisable detect cause bpduguard shutdown vlan
```

次のコマンドでは、VLAN ごとの errdisable ステートで音声認識 802.1x セキュリティをグローバルに設定する方法を示します。

```
Switch(config)# errdisable detect cause security-violation shutdown vlan
```

show errdisable detect 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。

関連トピック

[show errdisable detect](#) (70 ページ)

errdisable recovery cause

特定の原因から回復するように error-disabled メカニズムをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **errdisable recovery cause** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

errdisable recovery cause

```
#errdisable recovery cause {all | arp-inspection | bpduguard | channel-misconfig | dhcp-rate-limit | dtp-flap | gbic-invalid | inline-power | l2ptguard}
```

no errdisable recovery cause

```
#no errdisable recovery cause {all | arp-inspection | bpduguard | channel-misconfig | dhcp-rate-limit | dtp-flap | gbic-invalid | inline-power | l2ptguard}
```

構文の説明

| | |
|--------------------------|--|
| all | すべての errdisable の原因から回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| arp-inspection | アドレス解決プロトコル (ARP) 検査による errdisable ステートから回復するためのタイマーをイネーブルにします。 |
| bpduguard | ブリッジプロトコルデータ ユニット (BPDU) ガード errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| channel-misconfig | EtherChannel 設定の矛盾による errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| dhcp-rate-limit | DHCP スヌーピング errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| dtp-flap | ダイナミック トランッキングプロトコル (DTP) フラップ errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| gbic-invalid | ギガビットインターフェイスコンバータ (GBIC) モジュールを無効な errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 (注) このエラーは無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) の errdisable ステートを意味します。 |
| inline-power | Power over Ethernet (PoE) の errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 このキーワードは、PoE ポートを備えたスイッチでのみサポートされています。 |
| l2ptguard | レイヤ2プロトコルトンネルによる errdisable ステートから回復するためのタイマーをイネーブルにします。 |

| | |
|----------------------------|---|
| link-flap | リンクフラップ errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| loopback | ループバック errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| mac-limit | MAC 制限 errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| pagp-flap | ポート集約プロトコル (PAgP) フラップ errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| port-mode-failure | ポートモードの変更失敗の errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| pppoe-ia-rate-limit | PPPoE IA レート制限 errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| psecure-violation | ポートセキュリティ違反ディセーブルステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| security-violation | IEEE 802.1x 違反ディセーブルステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| sfp-config-mismatch | SFP設定の不一致によるエラー検出をイネーブルにします。 |
| storm-control | ストーム制御エラーから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| udld | 単方向リンク検出 (UDLD) errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |
| vmmps | VLAN メンバーシップ ポリシー サーバ (VMPS) errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。 |

コマンド デフォルト すべての原因に対して回復はディセーブルです。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン 原因 (all、BDPU ガードなど) は、errdisable ステートが発生した理由として定義されます。原因がインターフェイスで検出された場合、インターフェイスは errdisable ステート (リンクダウンステートに類似した動作ステート) となります。

ポートが **errdisable** になっているときは事実上シャットダウンし、トラフィックはポートで送受信されません。BPDUガード機能およびポートセキュリティ機能の場合は、違反の発生時にポート全体をシャットダウンする代わりに、ポートで問題となっている VLAN だけをシャットダウンするようにスイッチを設定できます。

原因の回復をイネーブルにしない場合、インターフェイスは、**shutdown** 及び **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドが入力されるまで **error-disabled** ステートのままです。原因の回復をイネーブルにした場合、インターフェイスは **errdisable** ステートから回復し、すべての原因がタイムアウトになったときに処理を再開できるようになります。

原因の回復をイネーブルにしない場合、まず **shutdown** コマンドを入力し、次に **no shutdown** コマンドを入力して、手動でインターフェイスを **error-disabled** ステートから回復させる必要があります。

設定を確認するには、**show errdisable recovery** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、BPDUガード **errdisable** 原因に対して回復タイマーをイネーブルにする方法を示します。

```
Switch(config)# errdisable recovery cause bpduguard
```

関連トピック

[errdisable recovery interval](#) (18 ページ)

[show errdisable recovery](#) (72 ページ)

[show interfaces](#) (74 ページ)

errdisable recovery interval

error-disabled ステートから回復する時間を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **errdisable recovery interval** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

errdisable recovery interval timer-interval
no errdisable recovery interval timer-interval

| | | |
|------------|---|-----------------|
| 構文の説明 | <i>timer-interval</i> errdisable ステートから回復する時間。指定できる範囲は 30 ~ 86400 秒です。すべての原因に同じ間隔が適用されます。デフォルトの間隔は 300 秒です。 | |
| コマンド デフォルト | デフォルトの回復間隔は 300 秒です。 | |
| コマンド モード | グローバル コンフィギュレーション | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン errdisable recovery のタイマーは、設定された間隔値からランダムな差で初期化されます。実際のタイムアウト値と設定された値の差は、設定された間隔の 15% まで認められます。設定を確認するには、**show errdisable recovery** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、タイマーを 500 秒に設定する方法を示します。

```
Switch(config)# errdisable recovery interval 500
```

関連トピック

[errdisable recovery cause](#) (15 ページ)

[show errdisable recovery](#) (72 ページ)

[show interfaces](#) (74 ページ)

interface

インターフェイスを設定するには、**interface** コマンドを使用します。

interface {**Auto-Template** *Auto-Template interface-number*|**Capwap** *Capwap interface-number*|**GigabitEthernet** *Gigabit Ethernet interface number*|**Group VI** *Group VI interface number* **Internal Interface** *Internal Interface number* **Loopback** *Loopback interface number* **Null** *Null interface number* **Port-channel** *interface number* **Port-channel** *interface number* **TenGigabitEthernet** *interface number* **Tunnel** *interface number* **Vlan** *interface number*}

構文の説明

| | |
|---|--|
| Auto-Template <i>Auto-template interface-number</i> | 自動テンプレート インターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 1 ~ 999 です。 |
| Capwap <i>Capwap interface number</i> | Control And Provisioning of Wireless Access Points (CAPWAP) トンネル インターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。 |
| GigabitEthernet <i>Gigabit Ethernet interface number</i> | ギガビット イーサネット IEEE 802.3z インターフェイスを設定できます。範囲は 0 ~ 9 です。 |
| Group VI <i>Group VI interface number</i> | Group VI インターフェイスを設定できます。範囲は 0 ~ 9 です。 |
| Internal Interface 内部インターフェイス | 内部インターフェイスを設定できます。 |
| Loopback <i>Loopback Interface number</i> | ループバック インターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。 |
| Null <i>Null interface number</i> | ヌル インターフェイスを設定できます。デフォルト値は 0 です |
| Port-channel <i>interface number</i> | ポートチャネル インターフェイスを設定できます。有効な範囲は 1 ~ 128 です。 |
| TenGigabitEthernet <i>interface number</i> | 10ギガビットイーサネットインターフェイスを設定できます。範囲は 0 ~ 9 です。 |
| Tunnel <i>interface number</i> | トンネル インターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。 |
| Vlan <i>interface number</i> | スイッチ VLAN を設定できます。範囲は 0 ~ 4098 です。 |

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|---------------------|---------------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 | 、、、 このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは「no」形式を使用できません。

次に、トンネルインターフェイスを設定する例を示します。

```
Switch# interface Tunnel 15
```

interface range

インターフェイス範囲を設定するには、**interface range** コマンドを使用します。

interface range {**Gigabit Ethernet** *interface-number*|**Loopback** *interface-number*|**Port Channel** *interface-number*|**TenGigabit Ethernet** *interface-number* **Tunnel** *interface-number* **Vlan** *interface-number* **Macro** *WORD*}

構文の説明

| | |
|--|--|
| Gigabit Ethernet <i>interface-number</i> | ギガビットイーサネット IEEE 802.3z インターフェイスを設定します。値の範囲は 1 ~ 9 です。 |
| Loopback <i>interface-number</i> | ループバック インターフェイスを設定します。値の範囲は 0 ~ 2147483647 です。 |
| Port-Channel <i>interface-number</i> | インターフェイスの 10 ギガビットイーサネット チャンネルを設定します。値の範囲は 1 ~ 128 です。 |
| TenGigabit Ethernet <i>interface-number</i> | 10 ギガビットイーサネット インターフェイスを設定します。値の範囲は 0 ~ 9 です。 |
| Tunnel <i>interface-number</i> | トンネル インターフェイスを設定します。値の範囲は 0 ~ 2147483647 です。 |
| VLAN <i>interface-number</i> | スイッチの VLAN インターフェイスを設定します。値の範囲は 1 ~ 4095 です。 |
| Macro <i>WORD</i> | インターフェイスに対するキーワードを設定します。最大 32 文字までサポートされます。 |

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|---------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 |

次に、インターフェイス範囲を設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface range vlan 1
```

ip mtu

スイッチまたはスイッチ スタックのすべてのルーテッドポートのルーテッドパケットの IP 最大伝送ユニット (MTU) サイズを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip mtu** コマンドを使用します。デフォルトの IP MTU サイズに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip mtu bytes
no ip mtu bytes

構文の説明

bytes MTU サイズ (バイト単位)。指定できる範囲は 68 からシステム MTU 値 (バイト単位) までです。

コマンド デフォルト

すべてのスイッチ インターフェイスで送受信されるフレームのデフォルト IP MTU サイズは、1500 バイトです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

IP 値の上限は、スイッチまたはスイッチ スタックの設定に基づき、現在適用されているシステム MTU 値を参照します。MTU サイズの設定に関する詳細については、**system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

デフォルトの IP MTU 設定に戻すには、インターフェイスで **default ip mtu** コマンドまたは **no ip mtu** コマンドを適用できます。

show ip interface interface-id または **show interfaces interface-id** 特権 EXEC コマンドを入力して設定を確認できます。

次に、VLAN 200 の最大 IP パケット サイズを 1000 バイト に設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface vlan 200
Switch(config-if)# ip mtu 1000
```

次に、VLAN 200 の最大 IP パケット サイズをデフォルト設定の 1500 バイト に設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface vlan 200
Switch(config-if)# default ip mtu
```

次に、**show ip interface interface-id** コマンドの出力の一部を示します。インターフェイスの現在の IP MTU 設定が表示されます。

```
Switch# show ip interface gigabitethernet4/0/1
GigabitEthernet4/0/1 is up, line protocol is up
  Internet address is 18.0.0.1/24
  Broadcast address is 255.255.255.255
  Address determined by setup command
  MTU is 1500 bytes
  Helper address is not set
```

<output truncated>

関連トピック

[show interfaces](#) (74 ページ)

[system mtu](#) (114 ページ)

ipv6 mtu

スイッチまたはスイッチ スタックのすべてのルーテッド ポートにルーテッド パケットの IPv6 最大伝送ユニット (MTU) サイズを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ipv6 mtu** コマンドを使用します。デフォルトの IPv6 MTU サイズに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 mtu bytes
no ipv6 mtu bytes

構文の説明

bytes MTU サイズ (バイト単位)。指定できる範囲は 1280 からシステム MTU 値 (バイト単位) までです。

コマンド デフォルト

すべてのスイッチ インターフェイスで送受信されるフレームのデフォルト IPv6 MTU サイズは、1500 バイトです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

IPv6 MTU 値の上限は、スイッチまたはスイッチ スタックの設定に基づき、現在適用されているシステム MTU 値を参照します。MTU サイズの設定に関する詳細については、**system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

デフォルトの IPv6 MTU 設定に戻すには、インターフェイスで **default ipv6 mtu** コマンドまたは **no ipv6 mtu** コマンドを適用できます。

show ipv6 interface interface-id または **show interface interface-id** 特権 EXEC コマンドを入力して設定を確認できます。

次に、インターフェイスの最大 IPv6 パケット サイズを 2000 バイトに設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet4/0/1
Switch(config-if)# ipv6 mtu 2000
```

次に、インターフェイスの最大 IPv6 パケット サイズをデフォルト設定の 1500 バイトに設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet4/0/1
Switch(config-if)# default ipv6 mtu
```

次に、**show ipv6 interface interface-id** コマンドの出力の一部を示します。インターフェイスの現在の IPv6 MTU 設定が表示されます。


```
Switch# show ipv6 interface gigabitethernet4/0/1
GigabitEthernet4/0/1 is up, line protocol is up
  Internet address is 18.0.0.1/24
  Broadcast address is 255.255.255.255
  Address determined by setup command
  MTU is 1500 bytes
  Helper address is not set
```

<output truncated>

関連トピック

[show interfaces](#) (74 ページ)

[system mtu](#) (114 ページ)

lldp (インターフェイス コンフィギュレーション)

インターフェイスの Link Layer Discovery Protocol (LLDP) をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **lldp** コマンドを使用します。インターフェイスで LLDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lldp {med-tlv-select tlv|receive|tlv-select power-management|transmit}
no lldp {med-tlv-select tlv|receive|tlv-select power-management|transmit}
```

構文の説明

| | |
|-------------------------|--|
| med-tlv-select | LLDP Media Endpoint Discovery (LLDP-MED) の Time Length Value (TLV) 要素を送信するように選択します。 |
| <i>tlv</i> | TLV 要素を特定するストリング。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • inventory-management : LLDP MED インベントリ管理 TLV。 • location : LLDP MED ロケーション TLV。 • network-policy : LLDP MED ネットワーク ポリシー TLV。 • power-management : LLDP MED 電源管理 TLV。 |
| receive | LLDP 伝送を受信するようにインターフェイスをイネーブルにします。 |
| tlv-select | 送信する LLDP TLV を選択します。 |
| power-management | LLDP 電源管理 TLV を送信します。 |
| transmit | インターフェイスで LLDP 伝送をイネーブルにします。 |

コマンド デフォルト LLDP はディセーブルです。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

このコマンドは、802.1 メディア タイプでサポートされています。

インターフェイスがトンネルポートに設定されていると、LLDP は自動的にディセーブルになります。

インターフェイスの LLDP 伝送をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1  
Switch(config-if)# no lldp transmit
```

インターフェイスの LLDP 伝送をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1  
Switch(config-if)# lldp transmit
```

logging event power-inline-status

Power over Ethernet (PoE) イベントのロギングを有効にするには、インターフェイスコンフィギュレーション モードで **logging event power-inline-status** コマンドを使用します。PoE ステータス イベントのロギングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event power-inline-status
no logging event power-inline-status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

PoE イベントのロギングはイネーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

このコマンドの **no** 形式を使用しても、PoE エラー イベントは無効になりません。

例

次の例では、ポート上で PoE イベントのロギングをイネーブルにする方法を示します。

```
Switch(config-if)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# logging event power-inline-status
Switch(config-if)#
```

関連トピック

[power inline](#) (39 ページ)

[show power inline](#) (96 ページ)

mdix auto

インターフェイスで Automatic Medium-Dependent Interface Crossover (Auto MDIX) 機能をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **mdix auto** コマンドを使用します。Auto MDIX をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mdix auto
no mdix auto

| | | |
|------------|---------------------------|-----------------|
| 構文の説明 | このコマンドには引数またはキーワードはありません。 | |
| コマンド デフォルト | Auto MDIX は、イネーブルです。 | |
| コマンド モード | インターフェイス コンフィギュレーション | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン Auto MDIX がイネーブルな場合、インターフェイスは自動的に必要なケーブル接続タイプ（ストレートまたはクロス）を検出し、接続を適切に設定します。

インターフェイスの Auto MDIX をイネーブルにする場合は、機能が正常に動作するように、インターフェイス速度とデュプレックスも **auto** に設定する必要があります。

Auto MDIX が（速度とデュプレックスの自動ネゴシエーションとともに）接続するインターフェイスの一方または両方でイネーブルの場合は、ケーブルタイプ（ストレートまたはクロス）が不正でもリンクがアップします。

インターフェイスの Auto-MDIX の動作ステートを確認するには、**show controllers ethernet-controller interface-id phy** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、ポートの Auto MDIX をイネーブルにする方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# speed auto
Switch(config-if)# duplex auto
Switch(config-if)# mdix auto
Switch(config-if)# end
```

関連トピック

[show controllers ethernet-controller](#) (51 ページ)

mode (電源スタックの設定)

設定内容 電源スタックの電源スタックモードを設定するには、電源スタック コンフィギュレーション モードで **mode** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mode {power-shared|redundant} [strict]
no mode

| 構文の説明 | | |
|-------|---------------------|--|
| | power-shared | 電源スタックが電源共有モードで動作するよう、設定します。これはデフォルトです。 |
| | redundant | 電源スタックが冗長モードで動作するよう、設定します。他の電源の1つに障害が発生した場合のバックアップ電源として使用するため、最大の電源が電源プールから削除されます。 |
| | strict | (任意) 電力バジェットが正確に実行されるよう、電源スタックモードを設定します。スタック電力は、使用可能電力を超えることができません。 |

コマンド デフォルト デフォルト モードは **power-shared** および **nonstrict** です。

コマンド モード 電源スタックの設定

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは、IP Base または IP Services フィーチャセットが実行されているスイッチ スタックでのみ使用できます。

電源スタック コンフィギュレーション モードにアクセスするには、**stack-power stack power stack name** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

no mode コマンドを入力すると、スイッチが、デフォルトの **power-shared** モードおよび **non-strict** モードに設定されます。



(注) スタック電源の場合、使用可能電力は、PoEで使用できる、電源スタックのすべての電源からの合計電力です。使用可能電力は、スタックのPoEポートに接続されているすべての受電デバイスに割り当てられている電力です。消費電力は、受電デバイスで実際に消費される電力です。

power-shared モードでは、すべての入力電力を負荷に使用でき、使用可能な合計電力は1つの大きな電源として扱われます。電力バジェットには、すべての電源から供給されるすべての電力が含まれます。電源障害の場合に除外される電力はありません。電源に障害が発生した場合、負荷制限（受電デバイスまたはスイッチのシャットダウン）が発生する場合があります。

redundant モードでは、他の電源の1つに障害が発生した場合のバックアップ電源として使用するため、最大の電源が電源プールから削除されます。使用可能な電力バジェットは、合計電力から最大の電源を差し引いたものです。これによって、スイッチおよび受電デバイスのプールで使用できる電力が減少しますが、障害または過剰な電力負荷が発生した場合に、スイッチまたは受電デバイスのシャットダウンの必要性が小さくなります。

strict モードでは、電源に障害が発生し、使用可能な電力が電力バジェットを下回った場合、システムによって、実際の電力が使用可能な電力よりも少ないかのように、受電デバイスの負荷制限を介してバジェットのバランスがとられます。**nonstrict** モードでは、電源スタックは割り当て超過状態で実行でき、実際の電力が使用可能な電力を超過しない限り、安定しています。このモードでは、受電デバイスが通常の電力を超えて電力を引き出すと、電源スタックが負荷制限を開始することがあります。ほとんどの装置は全出力電力では実行されないため、これは、通常、問題ではありません。スタック内で同時に最大電力を必要とする複数の受電デバイスが存在する可能性は、小さいからです。

strict モードと **nonstrict** モードの両方とも、電力バジェットに使用可能な電力がなくなった時点で、電力は拒否されます。

次に、**power1** という名前のスタックの電源スタックモードを、電力バジェットを **strict** にした **power-shared** に設定する例を示します。スタック内のすべての電力は共有されますが、使用可能な電力全体が割り当てられた場合、電力を使用できる余分な装置はなくなります。

```
Switch(config)# stack-power stack power1  
Switch(config-stackpower)# mode power-shared strict  
Switch(config-stackpower)# exit
```

次に、**power2** という名前のスタックの電源スタックモードを **redundant** に設定する例を示します。スタック内の最大の電源は電源プールから削除され、他の電源の1つが発生した場合に冗長性が提供されます。

```
Switch(config)# stack-power stack power2  
Switch(config-stackpower)# mode redundant  
Switch(config-stackpower)# exit
```

関連トピック

[stack-power](#) (107 ページ)

network-policy

インターフェイスにネットワークポリシー プロファイルを適用するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **network-policy** コマンドを使用します。ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

network-policy *profile-number*
no network-policy

| | | |
|------------|--|-----------------|
| 構文の説明 | <i>profile-number</i> インターフェイスに適用するネットワークポリシー プロファイル番号 | |
| コマンド デフォルト | ネットワークポリシー プロファイルは適用されません。 | |
| コマンド モード | インターフェイス コンフィギュレーション | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン インターフェイスにプロファイルを適用するには、**network-policy** *profile number* インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

最初にネットワークポリシー プロファイルを設定する場合、インターフェイスに **switchport voice vlan** コマンドを適用できません。ただし、**switchport voice vlan** *vlan-id* がすでにインターフェイス上に設定されている場合、ネットワークポリシープロファイルをインターフェイス上に適用できます。その後、インターフェイスは、適用された音声または音声シグナリングVLAN ネットワークポリシー プロファイルを使用します。

次の例では、インターフェイスにネットワークポリシー プロファイル 60 を適用する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# network-policy 60
```

関連トピック

- [network-policy profile \(グローバル コンフィギュレーション\) \(33 ページ\)](#)
- [show network-policy profile \(94 ページ\)](#)
- [voice-signaling vlan \(ネットワークポリシー コンフィギュレーション\) \(115 ページ\)](#)
- [voice vlan \(ネットワークポリシー コンフィギュレーション\) \(117 ページ\)](#)

network-policyprofile (グローバルコンフィギュレーション)

ネットワークポリシー プロファイルを作成し、ネットワークポリシー コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **network-policy profile** コマンドを使用します。ポリシーを削除して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻るには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

network-policy profile *profile-number*
no network-policy profile *profile-number*

| | | |
|------------|---|-----------------|
| 構文の説明 | <i>profile-number</i> ネットワークポリシー プロファイル番号。指定できる範囲は 1 ～ 4294967295 です。 | |
| コマンド デフォルト | ネットワークポリシー プロファイルは定義されていません。 | |
| コマンド モード | グローバル コンフィギュレーション | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

プロファイルを作成し、ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーションモードを開始するには、**network-policy profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーションモードから特権 EXEC モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーションモードの場合、VLAN、Class of Service (CoS)、Diffserv コードポイント (DSCP) の値、およびタギングモードを指定することで、音声および音声シグナリング用のプロファイルを作成することができます。

これらのプロファイルの属性は、Link Layer Discovery Protocol for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) の network-policy Time Length Value (TLV) に含まれます。

次の例では、ネットワークポリシー プロファイル 60 を作成する方法を示します。

```
Switch(config)# network-policy profile 60
Switch(config-network-policy)#
```

関連トピック
[network-policy](#) (32 ページ)

[show network-policy profile](#) (94 ページ)

[voice-signaling vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (115 ページ)

[voice vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (117 ページ)

nmsp attachment suppress

特定のインターフェイスからのアタッチメント情報のレポートを抑制するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **nmsp attachment suppress** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

nmsp attachment suppress
no nmsp attachment suppress

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

ロケーションおよびアタッチメント通知を Cisco モビリティ サービス エンジン (MSE) に送信しないようにインターフェイスを設定するには、**nmsp attachment suppress** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次の例では、アタッチメント情報を MSE に送信しないようにインターフェイスを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# nmsp attachment suppress
```

関連トピック

[show nmsp](#)

power efficient-ethernet auto

インターフェイスの EEE をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **power efficient-ethernet auto** コマンドを使用します。インターフェイスで EEE をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

power efficient-ethernet auto
no power efficient-ethernet auto

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

EEE は、ディセーブルにされています。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

低電力アイドル (LPI) モードをサポートするデバイスで EEE をイネーブルにできます。このようなデバイスは、低い使用率のときに LPI モードを開始して、電力を節約できます。LPI モードでは、リンクの両端にあるシステムは、特定のサービスをシャットダウンして、電力を節約できます。EEE は上位層プロトコルおよびアプリケーションに対して透過的であるように、LPI モードに移行したり、LPI モードから移行する必要があるプロトコルを提供します。

インターフェイスが EEE に対応している場合にのみ、**power efficient-ethernet auto** コマンドを使用できます。インターフェイスが EEE に対応しているかどうかを確認するには、**show eee capabilities EXEC** コマンドを使用します。

EEE がイネーブルの場合、スイッチはリンク パートナーに EEE をアドバタイズし、自動ネゴシエートします。インターフェイスの現在の EEE ステータスを表示するには、**show eee status EXEC** コマンドを使用します。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

次に、インターフェイスで EEE をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if) # power efficient-ethernet auto
Switch(config-if) #
```

次に、インターフェイスで EEE をディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config-if) # no power efficient-ethernet auto
Switch(config-if) #
```

power-priority

電源スタックのスイッチと高プライオリティおよび低プライオリティ PoE ポートに対して、Cisco StackPower の電源プライオリティ値を設定するには、スイッチ スタック電源コンフィギュレーションモードで **power-priority** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

power-priority {**high value**|**low value**|**switch value**}
no power-priority {**high**|**low**|**switch**}

構文の説明

| | |
|---------------------|--|
| high value | ポートの電力プライオリティを高プライオリティ ポートとして設定します。値は1～27です。1が最高のプライオリティです。 high の値は、低プライオリティポートに設定する値よりも小さく、スイッチに設定する値よりも大きくする必要があります。 |
| low value | ポートの電力プライオリティを低プライオリティ ポートとして設定します。指定できる範囲は1～27です。 low の値は、高プライオリティポートおよびスイッチに設定された値よりも大きくする必要があります。 |
| switch value | スイッチの電力プライオリティを設定します。指定できる範囲は1～27です。 switch の値は、低プライオリティポートおよび高プライオリティポートに設定された値よりも小さくする必要があります。 |

コマンドデフォルト

値が設定されていない場合、電源スタックでは、デフォルトプライオリティがランダムに決定されます。

デフォルトの範囲は、スイッチで1～9、高プライオリティポートで10～18、低プライオリティポートで19～27です。

非 PoE スイッチでは、（ポートプライオリティの）高い値と低い値は、影響がありません。

コマンドモード

スイッチのスタック電源設定

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

スイッチスタック電源コンフィギュレーションモードにアクセスするには、**stack-power switch switch-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

Cisco StackPower の電源プライオリティ値によって、電源が失われ、負荷制限が発生した場合のスイッチとポートのシャットダウンの順序が決定されます。プライオリティ値は1～27です。最も高い数が最初にシャットダウンされます。

各スイッチ、その高プライオリティポート、および低プライオリティポートでは、異なるプライオリティ値を設定して、電源が失われている間に一度にシャットダウンされる装置数を制限することを推奨します。同じ電源スタックの異なるスイッチに同じプライオリティ値を設定しようとする、設定は許可されますが、警告メッセージが表示されます。



(注) このコマンドは、IP Base または IP Services フィーチャセットが実行されているスイッチスタックでのみ使用できます。

例

次に、電源スタックの switch 1 の電源プライオリティを 7 に、高プライオリティポートを 11 に、低プライオリティポートを 20 に設定する例を示します。

```
Switch(config)# stack-power switch 1
Switch(config-switch-stackpower)# stack-id power_stack_a
Switch(config-switch-stackpower)# power-priority high 11
Switch(config-switch-stackpower)# power-priority low 20
Switch(config-switch-stackpower)# power-priority switch 7
Switch(config-switch-stackpower)# exit
```

関連トピック

[stack-power](#) (107 ページ)

[show stack-power](#) (102 ページ)

power inline

Power over Ethernet (PoE) ポートで電源管理モードを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **power inline** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
power inline {auto [max max-wattage]|four-pair forced|never|port priority {high |low} |static [max max-wattage]}
no power inline {auto|four-pair forced|never|port priority {high |low}|static [max max-wattage]}
```

構文の説明

| | |
|-----------------------------|---|
| auto | 受電装置の検出をイネーブルにします。十分な電力がある場合は、装置の検出後に PoE ポートに電力を自動的に割り当てます。割り当ては、検出された順序で行われます。 |
| max max-wattage | (任意) ポートに供給される電力を制限します。指定できる範囲は 4000 ~ 30000 mW です。値を指定しない場合は、最大電力が供給されます。 |
| four-pair forced | (任意) L2 ネゴシエーションなしで 4 ペア PoE をイネーブルにします (Cisco UPOE スイッチのみ)。 |
| never | 装置の検出とポートへの電力供給をディセーブルにします。 |
| port | ポートの電源プライオリティを設定します。デフォルトの優先度は [Low] です。 |
| priority {high low} | ポートの電源プライオリティを設定します。電源に障害が発生した場合には、低プライオリティとして設定されているポートが最初にオフになり、高プライオリティとして設定されたポートは最後にオフになります。デフォルトの優先度は [Low] です。 |

static 受電装置の検出をイネーブルにします。スイッチが受電デバイスを検出する前に、ポートへの電力を事前に割り当てます（確保します）。このアクションによって、インターフェイスに接続されたデバイスで十分な電力を受け取ることができます。

コマンド デフォルト デフォルトの設定は **auto**（イネーブル）です。
 最大ワット数は、30,000 mW です。
 デフォルトのポートプライオリティは低です。

コマンド デフォルト インターフェイス コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|------------------------|--|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |
| | Cisco IOS XE 3.3SE | four-pair forced キーワードが追加されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは、PoE 対応ポートだけでサポートされています。PoE がサポートされていないポートでこのコマンドを入力すると、次のエラー メッセージが表示されます。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# power inline auto
                        ^
% Invalid input detected at '^' marker.
```

スイッチスタックでは、このコマンドはPoEをサポートしているスタックの全ポートでサポートされます。

Cisco Universal Power Over Ethernet (Cisco UPOE) は、シグナル ペア（導線 1、2、3、6）付きの RJ-45 ケーブルのスペア ペア（導線 4、5、7、8）を使用して、IEEE 802.3at PoE 標準を拡張するシスコ独自のテクノロジーで、標準のイーサネット ケーブル配線インフラストラクチャ（クラス D 以上）により最大 60 W の電力を供給する機能を提供します。スペア ペアの電力は、スイッチ ポートとエンドデバイスが Cisco UPOE 対応であることを CDP または LLDP を使用して相互に識別し、エンドデバイスがスペア ペアの電力のイネーブル化を要求したときにイネーブルになります。スペア ペアに給電されると、エンドデバイスは、CDP または LLDP を使用して、スイッチから最大 60 W の電力をネゴシエートできます。 **power inline four-pair forced** コマンドは、信号ペアおよびスペア ペアの両方のエンドデバイスが PoE 対応の場合に使用します。ただし、Cisco UPOE に必要な CDP または LLDP 拡張はサポートしていません。

max max-wattage オプションを使用して、受電デバイスの電力が制限を超えないようにします。この設定によって、受電デバイスが最大ワット数より多い電力を要求する Cisco Discovery Protocol (CDP) メッセージを送信すると、スイッチはポートへ電力を供給しません。受電装置の IEEE クラスの最大値が最大ワット数を超えると、スイッチは装置に電力を供給しません。電力は、グローバル電力バジェットに送られます。



(注) **power inline max max-wattage** コマンドが 30 W 未満に設定されている場合、スイッチは Class 0 または Class 3 装置に電力を供給しません。

スイッチが受電デバイスへの電力供給を拒否する場合（受電デバイスが CDP メッセージを通じて制限を超えた電力を要求する場合、または IEEE クラスの最大値が最大ワット数を超えている場合）、PoE ポートは **power-deny** ステートになります。スイッチはシステム メッセージを生成し、**show power inline** 特権 EXEC コマンド出力の Oper カラムに **power-deny** が表示されます。

ポートに高いプライオリティを与えるには、**power inline static max max-wattage** コマンドを使用します。スイッチは、**auto** モードに設定されたポートに電力を割り当てる前に、**static** モードに設定されたポートに PoE を割り当てます。スイッチは、装置検出より優先的に設定されている場合に、スタティックポートの電力を確保します。接続された装置がない場合は、ポートがシャットダウン状態か否かに関係なく、スタティックポートの電力が確保されます。スイッチは、設定された最大ワット数をポートに割り当てます。その値は、IEEE クラスまたは受電デバイスからの CDP メッセージによって調節されることはありません。電力が事前割り当てられているので、最大ワット数以下の電力を使用する受電デバイスは、スタティックポートに接続されていれば電力が保証されます。ただし、受電デバイスの IEEE クラスが最大ワット数を超えると、スイッチは装置に電力を供給しません。CDP メッセージを通じて受電デバイスが最大ワット数を超えた量を要求していることをスイッチが認識すると、受電デバイスがシャットダウンします。

ポートが **static** モードの場合にスイッチが電力を事前割り当てできない場合（たとえば、電力バジェット全体がすでに別の自動ポートまたはスタティックポートに割り当てられているなど）、次のメッセージが表示されます。Command rejected: power inline static: pwr not available。ポートの設定は、そのまま変更されません。

power inline auto または **power inline static** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用してポートを設定すると、ポートは設定された速度とデュプレックス設定を使用して自動ネゴシエーションします。これは、受電デバイスであるかどうかに関係なく、接続された装置の電力要件を判別するのに必要です。電力要件が判別された後、スイッチはインターフェイスをリセットすることなく、設定された速度とデュプレックス設定を使用してインターフェイスをハードコードします。

power inline never コマンドを使用してポートを設定すると、ポートは設定された速度とデュプレックス設定に戻ります。

ポートにシスコ製の受電デバイスが接続されている場合は、**power inline never** コマンドでポートを設定しないでください。不正なリンクアップが生じ、ポートが **errdisable** ステートになる可能性があります。

power inline port priority {high | low} コマンドを使用して、PoE ポートの電源プライオリティを設定します。電力が不足した場合には、低いポートプライオリティでポートに接続されている受電デバイスが、まず、シャットダウンされます。

設定を確認するには、**show power inline EXEC** コマンドを入力します。

例

次の例では、スイッチ上で受電デバイスの検出をイネーブルにし、PoE ポートに自動的に電力を供給する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config-if)# power inline auto
```

次に、スイッチポートギガビットイーサネット1/0/1から自動的に信号ペアおよびスペアペアの両方の電力をイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# power inline four-pair forced
```

次の例では、Class 1 または Class 2 の受電デバイスを受け入れるように、スイッチ上でPoE ポートを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config-if)# power inline auto max 7000
```

次の例では、受電装置の検出をディセーブルにし、スイッチ上でPoE ポートへの電力供給を停止する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config-if)# power inline never
```

次の例では、電源に障害が発生した場合に最後のポートの1つがシャットダウンされるよう、ポートのプライオリティを高に設定する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config-if)# power inline port priority high
```

関連トピック

[logging event power-inline-status](#) (28 ページ)

[show power inline](#) (96 ページ)

power inline police

受電デバイスでリアルタイム電力消費のポリシングをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **power inline police** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

power inline police [action {errdisable|log}]
no power inline police

| | |
|-------|---|
| 構文の説明 | <p>action errdisable (任意) リアルタイムの電力消費がポートの最大電力割り当てを超過した場合、ポートへの電力をオフにするよう、スイッチを設定します。これがデフォルトのアクションになります。</p> |
| | <p>action log (任意) リアルタイムの電力消費がポートの最大電力割り当てを超過した場合、接続されているデバイスへの電力を供給しながら、スイッチが Syslog メッセージを生成するように設定します。</p> |

コマンド デフォルト 受電デバイスのリアルタイムの電力消費のポリシングは、ディセーブルです。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは、LAN Base イメージのみでサポートされています。

このコマンドは、Power of Ethernet (PoE) 対応ポートのみでサポートされています。PoE をサポートしていないスイッチまたはポートでこのコマンドを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

スイッチスタックでは、このコマンドは、PoEおよびリアルタイム電力消費モニタリングをサポートしているスタックの全スイッチまたはポートでサポートされます。

リアルタイムの電力消費のポリシングがイネーブルである場合、受電デバイスが割り当てられた最大電力より多くの量を消費すると、スイッチが対処します。

PoEがイネーブルである場合、スイッチは受電装置のリアルタイムの電力消費を検知します。この機能は、パワー モニタリングまたはパワー センシングといわれます。また、スイッチはパワー ポリシング機能を使用して消費電力をポリシングします。

パワー ポリシングがイネーブルである場合、スイッチは次の順のいずれかの方式で PoE ポートのカットオフ電力として、これらの値の 1 つを使用します。

1. **power inline auto max max-wattage** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドまたは **power inline static max max-wattage** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力したときにポート上で許可される電力を制限するユーザ定義の電力レベル。
2. スイッチでは、CDP パワー ネゴシエーションまたは IEEE 分類および LLDP 電力ネゴシエーションを使用して、装置の消費使用量が自動的に設定されます。

カットオフ電力量の値を手動で設定しない場合、スイッチは、CDP 電力ネゴシエーションまたはデバイスの IEEE 分類と LLDP 電力ネゴシエーションを使用して自動的に値を決定します。CDP または LLDP がイネーブルでない場合は、デフォルト値の 30 W が適用されます。ただし、CDP または LLDP がない場合は、15400 ~ 30000 mW の値が CDP 要求または LLDP 要求だけに基づいて割り当てられるため、装置で 15.4 W を超える電力の消費がスイッチから許可されません。受電デバイスが CDP または LLDP のネゴシエーションなしに 15.4 W を超える電力を消費する場合、装置は最大電流 I_{max} の制限に違反し、最大値を超える電流が供給されるという I_{cut} 障害が発生する可能性があります。再び電源を入れるまで、ポートは障害状態のままになります。ポートで継続的に 15.4 W を超える電力が給電される場合、このサイクルが繰り返されます。

PoE+ ポートに接続されている受電デバイスが再起動し、電力 TLV で CDP パケットまたは LLDP パケットが送信される場合、スイッチは最初のパケットの電力ネゴシエーションプロトコルをロックし、その他のプロトコルからの電力要求に応答しません。たとえば、スイッチが CDP にロックされている場合、LLDP 要求を送信する装置に電力を供給しません。スイッチが CDP にロックされた後で CDP がディセーブルになった場合、スイッチは LLDP 電源要求に応答せず、アクセサリの電源がオンにならなくなります。この場合、受電デバイスを再起動する必要があります。

パワー ポリシングがイネーブルである場合、スイッチはリアルタイムの電力消費を PoE ポートに割り当てられた最大電力と比較して、消費電力をポリシングします。装置が最大電力割り当て（またはカットオフ電力）を超える電力をポートで使用している場合、スイッチでは、ポートへの電力供給がオフにされるか、または装置に電力を供給しながらスイッチは Syslog メッセージが生成して LED（ポート LED はオレンジ色に点滅）を更新します。

- ポートへの電力供給をオフにして、ポートを **error-disabled** ステートとするようスイッチを設定するには、**power inline police** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。
- 装置に電力を供給しながら、syslog メッセージを生成するようスイッチを設定するには、**power inline police action log** コマンドを使用します。

action log キーワードを入力しない場合のデフォルトのアクションは、ポートのシャットダウン、ポートへの電力供給のオフ、およびポートを PoE **error-disabled** ステートに移行になります。PoE ポートを **error-disabled** ステートから自動的に回復するよう設定するには、**errdisable detect cause inline-power** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、PoE 原因に対する **error-disabled** 検出をイネーブルにして、**errdisable recovery cause inline-power interval** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、PoE **error-disabled** 原因の回復タイマーをイネーブルにします。



注意 ポリシングがディセーブルである場合、受電デバイスがポートに割り当てられた最大電力より多くの量を消費しても対処されないため、スイッチに悪影響を与える場合があります。

設定を確認するには、**show power inline police** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、電力消費のポリシングをイネーブルにして、スイッチの PoE ポートで Syslog メッセージを生成するようスイッチを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/2  
Switch(config-if)# power inline police action log
```

関連トピック

[power inline](#) (39 ページ)

[show power inline](#) (96 ページ)

power supply

スイッチの内部電源を設定および管理するには、特権 EXEC モードで **power supply** コマンドを使用します。

power supply *stack-member-number* **slot** {A|B} {off|on}

構文の説明

| | |
|----------------------------|---|
| <i>stack-member-number</i> | 内部電源を設定するスタックメンバ番号。指定できる範囲は、スタック内のスイッチの数に応じて1～9です。 このパラメータは、スタック対応スイッチだけで使用できます。 |
| slot | 設定するスイッチの電源を選択します。 |
| A | スロット A の電源を選択します。 |
| B | スロット B の電源を選択します。 (注) 電源スロット B は、スイッチの外側エッジに最も近いスロットです。 |
| off | スイッチの電源をオフに設定します。 |
| on | スイッチの電源をオンに設定します。 |

コマンド デフォルト

スイッチの電源がオンになります。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|---|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |
| Cisco IOS XE 3.3SE | slot キーワードが frufep キーワードに代わるものとして使用されるようになりました。 |

使用上のガイドライン

power supply コマンドは、スイッチまたはすべてのスイッチが同じプラットフォームであるスイッチ スタックに適用されます。

同じプラットフォーム スイッチを含むスイッチ スタックでは、**slot** {A | B} **off** or **on** キーワードを入力する前に、スタック メンバを指定する必要があります。

デフォルト設定に戻すには、**power supply stack-member-number on** コマンドを使用します。

設定を確認するには、**show env power** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次に、スロット A の電源装置をオフに設定する例を示します。

```
Switch> power supply 2 slot A off
Disabling Power supply A may result in a power loss to PoE devices and/or switches ...
Continue? (yes/[no]): yes
Switch
Jun 10 04:52:54.389: %PLATFORM_ENV-6-FRU_PS_OIR: FRU Power Supply 1 powered off
Jun 10 04:52:56.717: %PLATFORM_ENV-1-FAN_NOT_PRESENT: Fan is not present
```

次に、スロット A の電源装置をオンに設定する例を示します。

```
Switch> power supply 1 slot B on
Jun 10 04:54:39.600: %PLATFORM_ENV-6-FRU_PS_OIR: FRU Power Supply 1 powered on
```

次に、show env power コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show env power
SW  PID                               Serial#      Status          Sys Pwr  PoE Pwr  Watts
--  -----                               -
1A  PWR-1RUC2-640WAC                    DCB1705B05B OK          Good     Good     250/390
1B  Not Present
```

関連トピック

[show env](#) (67 ページ)

show CAPWAP summary

アクセス ポイントおよびその他のモビリティ コントローラに対してコントローラが確立するすべての CAPWAP トンネルを表示するには、**show CAPWAP summary** コマンドを使用します。

show CAPWAP summary

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|---------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 |

次に、アクセス ポイントなどに対して、コントローラの確立する CAPWAP トンネルを表示する例を示します。

```
Switch# show capwap summary
CAPWAP Tunnels General Statistics:
Number of Capwap Data Tunnels = 8
Number of Capwap Mobility Tunnels = 0
Number of Capwap Multicast Tunnels = 0
Name APName Type PhyPortIf Mode McastIf
-----
Ca4 AP-Behind-Router data - unicast -
Ca0 AP1142-kat data - unicast -
Ca5 APRFCHAMBER2-EDISON data - unicast -
Ca6 KATANA_2_RF data - unicast -
Ca1 AP-1040-RF data - unicast -
Ca7 KATANA_1_RF data - unicast -
Ca2 AP3500-2027 data - unicast -
Ca3 AP-1040-out data - unicast -
```


show controllers cpu-interface

CPU ネットワーク インターフェイス ASIC の状態、および CPU に届くパケットの送受信の統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show controllers cpu-interface** コマンドを使用します。

show controllers cpu-interface [{switch stack-member-number}]

| | |
|------------|---|
| 構文の説明 | switch (任意) スタックメンバ番号を指定します。 <i>stack-member-number</i> |
| コマンド デフォルト | なし |
| コマンド モード | 特権 EXEC |
| コマンド履歴 | リリース 変更内容 Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドを使用することで、シスコのテクニカルサポート担当がスイッチのトラブルシューティングを行うのに役立つ情報が表示されます。

例

次に、**show controllers cpu-interface** コマンドの一部の出力例を示します。

```
Switch# show controllers cpu-interface switch 1
cpu-queue-frames  retrieved dropped invalid hol-block

-----

Routing Protocol          0          0          0          0
L2 Protocol              241567          0          0          0
sw forwarding            0          0          0          0
broadcast                68355          0          0          0
icmp                    0          0          0          0
icmp redirect            0          0          0          0
logging                  0          0          0          0
rpf-fail                 0          0          0          0
DOT1X authentication 328174          0          0          0
Forus Traffic            0          0          0          0
Forus Resolution         0          0          0          0
Wireless q5              0          0          0          0
Wireless q1              0          0          0          0
Wireless q2              0          0          0          0
Wireless q3              0          0          0          0
Wireless q4              0          0          0          0
Learning cache           0          0          0          0
Topology control        820408          0          0          0
Proto snooping           0          0          0          0
bfd Low latency          0          0          0          0
Transit Traffic          0          0          0          0
Multi End station        0          0          0          0
```

show controllers cpu-interface

| | | | | |
|------------------|---|---|---|---|
| Health Check | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Crypto control | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Exception | 0 | 0 | 0 | 0 |
| General Punt | 0 | 0 | 0 | 0 |
| NFL sampled data | 0 | 0 | 0 | 0 |
| STG cache | 0 | 0 | 0 | 0 |
| EGR exception | 0 | 0 | 0 | 0 |
| show forward | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Multicast data | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Gold packet | 0 | 0 | 0 | 0 |

関連トピック

[show controllers ethernet-controller](#) (51 ページ)

[show interfaces](#) (74 ページ)

show controllers ethernet-controller

キーワードでハードウェアから読み込んだインターフェイス単位の送受信の統計情報を表示するには、EXEC モードで **show controllers ethernet-controller** コマンドを使用します。

```
show controllers ethernet-controller [interface-id] [{down-when-looped|phy [detail]}] [port-asic
statistics {exceptions|interface interface-id {l2|l3}|l3-ifid if-id|port-ifid if-id|vlan-ifid if-id} [switch
stack-member-number] [asic ASIC-number]
```

| | | |
|-------|---|--|
| 構文の説明 | <i>interface-id</i> | (任意) 物理インターフェイスの ID です。 |
| | down-when-looped | (任意) down-when-looped 検出に関連するステータスを表示します。 |
| | phy | (任意) デバイス、またはインターフェイスのスイッチの物理層デバイス (PHY) の内部レジスタステータスを表示します。インターフェイスの Automatic Medium-Dependent Interface Crossover (Auto-MDIX) 機能の動作ステータスを表示に含めます。 |
| | detail | (任意) PHY 内部レジスタの詳細情報を表示します。 |
| | port-asic | (任意) ポートの ASIC 内部レジスタの情報を表示します。 |
| | statistics | ポートの ASIC 統計情報 (Rx/Sup キューおよびその他の統計情報を含む) を表示します。 |
| | exceptions | ポートの ASIC 例外統計情報を表示します。 |
| | interface <i>interface-id</i> | ポートの ASIC 統計情報を表示するインターフェイスを指定します。 |
| | l2 | レイヤ 2 インターフェイスの統計情報を表示します。 |
| | l3 | レイヤ 3 インターフェイスの統計情報を表示します。 |
| | l3-ifid <i>if-id</i> | ポートの ASIC 統計情報を表示するレイヤ 3 IF インターフェイス ID を指定します。 |
| | port-ifid <i>if-id</i> | ポートの ASIC 統計情報を表示する PortIF インターフェイス ID を指定します。 |
| | vlan-ifid <i>if-id</i> | ポートの ASIC 統計情報を表示する VLANIF インターフェイス ID を指定します。 |
| | switch <i>stack-member-number</i> | (任意) 送受信の統計情報を表示するスタック メンバ番号を指定します。 |
| | asic <i>asic-number</i> | (任意) ASIC 番号を指定します。 |

コマンドモード ユーザ EXEC (ユーザ EXEC モードの *interface-id* キーワードを指定した場合だけサポート)
特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン キーワードがない場合、このコマンドはすべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスの RMON 統計情報を示します。

インターフェイスの内部レジスタを表示するには、**phy** キーワードを使用します。ポートの ASIC に関する情報を表示するには、**port-asic** キーワードを使用します。

phy または **port-asic** キーワードを入力すると、主にシスコテクニカルサポート担当者によるスイッチのトラブルシューティングに役立つ情報が表示されます。

例

次に、あるインターフェイスに対する **show controllers ethernet-controller** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show controllers ethernet-controller gigabitethernet1/0/1
Transmit                               GigabitEthernet1/0/1          Receive
19216827 Total bytes                   0 Total bytes
   41935 Unicast frames                 0 Unicast frames
2683840 Unicast bytes                  0 Unicast bytes
   216662 Multicast frames              0 Multicast frames
16532987 Multicast bytes                0 Multicast bytes
   0 Broadcast frames                  0 Broadcast frames
   0 Broadcast bytes                   0 Broadcast bytes
   0 System FCS error frames            0 IpgViolation frames
   0 MacUnderrun frames                 0 MacOverrun frames
   0 Pause frames                       0 Pause frames
   0 Cos 0 Pause frames                 0 Cos 0 Pause frames
   0 Cos 1 Pause frames                 0 Cos 1 Pause frames
   0 Cos 2 Pause frames                 0 Cos 2 Pause frames
   0 Cos 3 Pause frames                 0 Cos 3 Pause frames
   0 Cos 4 Pause frames                 0 Cos 4 Pause frames
   0 Cos 5 Pause frames                 0 Cos 5 Pause frames
   0 Cos 6 Pause frames                 0 Cos 6 Pause frames
   0 Cos 7 Pause frames                 0 Cos 7 Pause frames
   0 Oam frames                         0 OamProcessed frames
   0 Oam frames                         0 OamDropped frames
251598 Minimum size frames             0 Minimum size frames
   0 65 to 127 byte frames              0 65 to 127 byte frames
   0 128 to 255 byte frames              0 128 to 255 byte frames
6999 256 to 511 byte frames             0 256 to 511 byte frames
   0 512 to 1023 byte frames            0 512 to 1023 byte frames
   0 1024 to 1518 byte frames           0 1024 to 1518 byte frames
   0 1519 to 2047 byte frames           0 1519 to 2047 byte frames
   0 2048 to 4095 byte frames           0 2048 to 4095 byte frames
   0 4096 to 8191 byte frames           0 4096 to 8191 byte frames
   0 8192 to 16383 byte frames          0 8192 to 16383 byte frames
   0 16384 to 32767 byte frame          0 16384 to 32767 byte frame
   0 > 32768 byte frames                 0 > 32768 byte frames
   0 Late collision frames               0 SymbolErr frames
   0 Excess Defer frames                 0 Collision fragments
   0 Good (1 coll) frames                0 ValidUnderSize frames
```

```

0 Good (>1 coll) frames
0 Deferred frames
0 Gold frames dropped
0 Gold frames truncated
0 Gold frames successful
0 1 collision frames
0 2 collision frames
0 3 collision frames
0 4 collision frames
0 5 collision frames
0 6 collision frames
0 7 collision frames
0 8 collision frames
0 9 collision frames
0 10 collision frames
0 11 collision frames
0 12 collision frames
0 13 collision frames
0 14 collision frames
0 15 collision frames
0 Excess collision frames

0 InvalidOverSize frames
0 ValidOverSize frames
0 FcsErr frames
    
```

LAST UPDATE 850 msec AGO

表 1: Transmit のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|-------------------------|--|
| Total bytes | インターフェイス上で送信されたバイトの総数。 |
| Unicast Frames | ユニキャスト アドレスに送信されたフレームの総数。 |
| Unicast bytes | ユニキャスト アドレスに送信されたバイトの総数。 |
| Multicast frames | マルチキャスト アドレスに送信されたフレームの総数。 |
| Multicast bytes | マルチキャスト アドレスに送信されたバイトの総数。 |
| Broadcast frames | ブロードキャスト アドレスに送信されたフレームの総数。 |
| Broadcast bytes | ブロードキャスト アドレスに送信されたバイトの総数。 |
| System FCS error frames | フレーム チェック シーケンス (FCS) に失敗したフレームの総数。 |
| MacUnderrun frames | MAC アンダーラン エラーを持つフレームの総数。 |
| Pause frames | インターフェイス上で送信されたポーズ フレームの総数。 |
| Cos x Pause frames | インターフェイス上で送信されたサービス クラス (CoS) X ポーズ フレームの総数。 |
| Oam frames | インターフェイス上で送信されたイーサネット OAM (オペレーション、アドミニストレーション、およびメンテナンス) フレームの総数。 |

| フィールド | 説明 |
|----------------------------|--|
| Minimum size frames | 最小許可フレーム サイズのフレームの数。 |
| 65 to 127 byte frames | インターフェイス上で送信された 65 ～ 127 バイトのフレームの総数。 |
| 128 to 255 byte frames | インターフェイス上で送信された 128 ～ 255 バイトのフレームの総数。 |
| 256 to 511 byte frames | インターフェイス上で送信された 256 ～ 511 バイトのフレームの総数。 |
| 512 to 1023 byte frames | インターフェイス上で送信された 512 ～ 1023 バイトのフレームの総数。 |
| 1024 to 1518 byte frames | インターフェイス上で送信された 1024 ～ 1518 バイトのフレームの総数。 |
| 1519 to 2047 byte frames | インターフェイス上で送信された 1519 ～ 2047 バイトのフレームの総数。 |
| 2048 to 4095 byte frames | インターフェイス上で送信された 2048 ～ 4095 バイトのフレームの総数。 |
| 4096 to 8191 byte frames | インターフェイス上で送信された 4096 ～ 8191 バイトのフレームの総数。 |
| 8192 to 16383 byte frames | インターフェイス上で送信された 8192 ～ 16383 バイトのフレームの総数。 |
| 16384 to 32767 byte frames | インターフェイス上で送信された 16384 ～ 32767 バイトのフレームの総数。 |
| > 32768 byte frames | インターフェイス上で送信された 32768 バイトより大きいフレームの総数。 |
| Late collision frames | フレームが送信された後で、フレームの送信時に検出されたレイト コリジョンのためにドロップされたフレームの数。 |
| Excess defer frames | 時間が最大パケット時間を超えた後で送信されなかったフレームの数。 |
| Good (1 coll) frames | 1 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。この値には 1 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されなかったフレームの数は含まれません。 |
| Good (>1 coll) frames | 2 回以上の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。この値には 2 回以上の衝突後、正常に送信されなかったフレームの数は含まれません。 |

| フィールド | 説明 |
|------------------------|------------------------------------|
| Deferred frames | 時間が2*最大パケット時間を超えた後で送信されなかったフレームの数。 |
| Gold frames dropped | ドロップされたゴールドフレームの数。 |
| Gold frames truncated | 切り捨てられたゴールドフレームの数。 |
| Gold frames successful | 成功したゴールドフレームの数。 |
| 1 collision frames | 1回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 2 collision frames | 2回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 3 collision frames | 3回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 4 collision frames | 4回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 5 collision frames | 5回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 6 collision frames | 6回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 7 collision frames | 7回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 8 collision frames | 8回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 9 collision frames | 9回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 10 collision frames | 10回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 11 collision frames | 11回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 12 collision frames | 12回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 13 collision frames | 13回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |

| フィールド | 説明 |
|---------------------|-----------------------------------|
| 14 collision frames | 14回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 15 collision frames | 15回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| Excess collisions | 16回の衝突後、インターフェイス上で送信できなかったフレームの数。 |

表 2: Transmit のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|---------------------|--------------------------------------|
| Bytes | インターフェイス上で送信されたバイトの総数。 |
| Unicast Frames | ユニキャスト アドレスに送信されたフレームの総数。 |
| Multicast frames | マルチキャスト アドレスに送信されたフレームの総数。 |
| Broadcast frames | ブロードキャスト アドレスに送信されたフレームの総数。 |
| Too old frames | パケットが有効期限切れのため出力ポートでドロップされたフレームの数。 |
| Deferred frames | 時間が 2* 最大パケット時間を超えた後で送信されなかったフレームの数。 |
| MTU exceeded frames | 最大許可フレーム サイズを超えたフレームの数。 |
| 1 collision frames | 1 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 2 collision frames | 2 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 3 collision frames | 3 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 4 collision frames | 4 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 5 collision frames | 5 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 6 collision frames | 6 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 7 collision frames | 7 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 8 collision frames | 8 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 9 collision frames | 9 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 10 collision frames | 10 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |

| フィールド | 説明 |
|----------------------|--|
| 11 collision frames | 11回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 12 collision frames | 12回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 13 collision frames | 13回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 14 collision frames | 14回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| 15 collision frames | 15回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。 |
| Excessive collisions | 16回の衝突後、インターフェイス上で送信できなかったフレームの数。 |
| Late collisions | フレームが送信された後で、フレームの送信時に検出されたレイトコリジョンのためにドロップされたフレームの数。 |
| VLAN discard frames | CFI ビットが設定されたことによりインターフェイス上でドロップされたフレームの数。 ¹ 。 |
| Excess defer frames | 時間が最大パケット時間を超えた後で送信されなかったフレームの数。 |
| 64 byte frames | インターフェイス上で送信された 64 バイトのフレームの総数。 |
| 127 byte frames | インターフェイス上で送信された 65 ~ 127 バイトのフレームの総数。 |
| 255 byte frames | インターフェイス上で送信された 128 ~ 255 バイトのフレームの総数。 |
| 511 byte frames | インターフェイス上で送信された 256 ~ 511 バイトのフレームの総数。 |
| 1023 byte frames | インターフェイス上で送信された 512 ~ 1023 バイトのフレームの総数。 |
| 1518 byte frames | インターフェイス上で送信された 1024 ~ 1518 バイトのフレームの総数。 |
| Too large frames | インターフェイス上で送信された最大許可フレーム サイズを超えたフレームの数。 |
| Good (1 coll) frames | 1 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されたフレームの数。この値には 1 回の衝突後、インターフェイス上で正常に送信されなかったフレームの数は含まれません。 |

¹ CFI = Canonical Format Indicator

表 3: Receive のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|---------------------|--|
| Total Bytes | インターフェイス上で受信されたフレームによって使用されたメモリ (バイト) の総量。FCS 値および正常形式でないフレームも含まれます。 ² 。この値には、フレームヘッダービットが含まれません。 |
| Unicast frames | インターフェイス上で正常に受信されたユニキャストアドレスに向けられたフレームの総数。 |
| Unicast bytes | インターフェイス上で受信されたユニキャストフレームによって使用されたメモリ (バイト) の総量。FCS 値および正常形式でないフレームも含まれます。この値には、フレームヘッダービットが含まれません。 |
| Multicast frames | インターフェイス上で受信されたマルチキャストフレームによって使用されたメモリ (バイト) の総量。FCS 値および正常形式でないフレームも含まれます。この値には、フレームヘッダービットが含まれません。 |
| Multicast bytes | インターフェイス上で正常に受信されたマルチキャストアドレスに向けられたバイトの総数。 |
| Broadcast frames | インターフェイス上で正常に受信されたブロードキャストアドレスに向けられたフレームの総数。 |
| Broadcast bytes | インターフェイス上で受信されたブロードキャストフレームによって使用されたメモリ (バイト) の総量。FCS 値および正常形式でないフレームも含まれます。この値には、フレームヘッダービットが含まれません。 |
| IpgViolation frames | パケット間ギャップ (IPG) 違反のフレームの総数。 |
| MacOverrun frames | MacOverrun エラーのフレームの総数。 |
| Pause frames | インターフェイス上で受信されたポーズフレームの総数。 |
| Cos x Pause frames | インターフェイス上で受信されたサービス クラス (CoS) X ポーズフレームの総数。 |
| OamProcessed | インターフェイス上で処理されたイーサネット OAM (オペレーション、アドミニストレーション、およびメンテナンス) フレームの総数。 |
| OamDropped | インターフェイス上でドロップされたイーサネット OAM (オペレーション、アドミニストレーション、およびメンテナンス) フレームの総数。 |

| フィールド | 説明 |
|----------------------------|---|
| Minimum size frames | 最小フレーム サイズのフレームの総数。 |
| 65 to 127 byte frames | 65 ～ 127 バイトのフレームの総数。 |
| 128 to 255 byte frames | 128 ～ 255 バイトのフレームの総数。 |
| 256 to 511 byte frames | 256 ～ 511 バイトのフレームの総数。 |
| 512 to 1023 byte frames | 512 ～ 1023 バイトのフレームの総数。 |
| 1024 to 1518 byte frames | 1024 ～ 1518 バイトのフレームの総数。 |
| 1519 to 2047 byte frames | 1519 ～ 2047 バイトのフレームの総数。 |
| 2048 to 4095 byte frames | 2048 ～ 4095 バイトのフレームの総数。 |
| 4096 to 8191 byte frames | 4096 ～ 8191 バイトのフレームの総数。 |
| 8192 to 16383 byte frames | 8192 ～ 16383 バイトのフレームの総数。 |
| 16384 to 32767 byte frames | 16384 ～ 32767 バイトのフレームの総数。 |
| > 32768 byte frames | 32768 バイトより大きいフレームの総数。 |
| Symbol error frames | インターフェイス上で受信されたシンボルエラーを持つフレームの数。 |
| Collision fragments | インターフェイス上で受信されたコリジョン フラグメントの数。 |
| Valid undersize frames | 64 バイト（または VLAN タグ付きフレームでは 68 バイト）未満で、有効な FCS 値を持つインターフェイスで受信されたフレームの数。フレーム サイズには、FCS ビットが含まれ、フレーム ヘッダー ビットは含まれません。 |
| Invalid oversize frames | 許可される最大伝送単位（MTU）サイズ（FCS ビットを含み、フレーム ヘッダーを含まない）を超え、FCS エラーまたはアライメントエラーのいずれかを持つ、受信済みフレームの数。 |
| Valid oversize frames | インターフェイス上で受信された最大許可フレーム サイズを超え、有効な FCS 値を持つフレームの数。フレーム サイズには、FCS 値が含まれ、VLAN タグは含まれません。 |
| FcsErr frames | インターフェイス上で受信された有効な長さ（バイト）を持ち、正常な FCS 値を持たないフレームの総数。 |

² FCS = フレーム チェック シーケンス

次に、特定のインターフェイスに対する **show controllers ethernet-controller phy** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show controllers ethernet-controller gigabitethernet1/0/2 phy
Gi1/0/2 (gpn: 2, port-number: 2)
-----
0000 : 1140 Control Register                : 0001 0001 0100 0000
0001 : 7949 Control STATUS                  : 0111 1001 0100 1001
0002 : 0141 Phy ID 1                        : 0000 0001 0100 0001
0003 : 0EE0 Phy ID 2                        : 0000 1110 1110 0000
0004 : 03E1 Auto-Negotiation Advertisement : 0000 0011 1110 0001
0005 : 0000 Auto-Negotiation Link Partner  : 0000 0000 0000 0000
0006 : 0004 Auto-Negotiation Expansion Reg : 0000 0000 0000 0100
0007 : 2001 Next Page Transmit Register   : 0010 0000 0000 0001
0008 : 0000 Link Partner Next page Registe : 0000 0000 0000 0000
0010 : 3B60 PHY Specific Control           : 0011 1011 0110 0000
0011 : 8010 PHY Specific Status           : 1000 0000 0001 0000
0012 : 6404 PHY Specific Interrupt Enable  : 0110 0100 0000 0100
0013 : 0000 PHY Specific Interrupt Status  : 0000 0000 0000 0000
```

関連トピック

[show controllers cpu-interface](#) (49 ページ)

show controllers utilization

帯域幅利用率を表示するには、EXEC モードで **show controllers utilization** コマンドを使用します。

show controllers [*interface-id*] **utilization**

| | | |
|------------|---|-----------------|
| 構文の説明 | <i>interface-id</i> (任意) 物理インターフェイスの ID です。 | |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | ユーザ EXEC 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

次に、**show controllers utilization** コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show controllers utilization
Port          Receive Utilization  Transmit Utilization
Gi1/0/1       0                    0
Gi1/0/2       0                    0
Gi1/0/3       0                    0
Gi1/0/4       0                    0
Gi1/0/5       0                    0
Gi1/0/6       0                    0
Gi1/0/7       0                    0
<output truncated>
Gi2/0/1       0                    0
Gi2/0/2       0                    0
<output truncated>
Total Ports : 48
Switch Receive Bandwidth Percentage Utilization : 0
Switch Transmit Bandwidth Percentage Utilization : 0

Average Switch Percentage Utilization : 0
```

次に、特定のポートでの **show controllers utilization** コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show controllers gigabitethernet1/0/1 utilization
Receive Bandwidth Percentage Utilization : 0
Transmit Bandwidth Percentage Utilization : 0
```

表 4: *show controllers utilization* のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| Receive Bandwidth Percentage Utilization | スイッチの受信帯域利用率を表示します。これは、すべてのポートの受信トラフィックの合計をスイッチの受信容量で割ったものです。 |
| Transmit Bandwidth Percentage Utilization | スイッチの送信帯域利用率を表示します。これは、すべてのポートの送信トラフィックの合計をスイッチの送信容量で割ったものです。 |
| Average Switch Percentage Utilization | スイッチの送信と受信の両方の帯域利用率の平均を表示します。 |

show eee

インターフェイスの EEE 情報を表示するには、EXEC モードで **show eee** コマンドを使用します。

show eee{capabilities| status}interfaceinterface-id

| | | |
|-------|-------------------------------|---|
| 構文の説明 | capabilities | 指定インターフェイスの EEE 機能を表示します。 |
| | status | 指定したインターフェイスの EEE ステータス情報を表示します。 |
| | interface interface-id | EEE 機能またはステータス情報を表示するためのインターフェイスを指定します。 |

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

低電力アイドル (LPI) モードをサポートするデバイスで EEE をイネーブルにできます。このようなデバイスは、低い電力使用率のときに LPI モードを開始して、電力を節約できます。LPI モードでは、リンクの両端にあるシステムは、特定のサービスをシャットダウンして、電力を節約できます。EEE は上位層プロトコルおよびアプリケーションに対して透過的であるように、LPI モードに移行したり、LPI モードから移行する必要があるプロトコルを提供します。

インターフェイスが EEE に対応しているかどうかを確認するには、**show eee capabilities** コマンドを使用します。**power efficient-ethernet auto** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、EEE に対応しているインターフェイスで EEE をイネーブルにできます。

インターフェイスの EEE ステータス、LPI ステータス、および wake エラー カウント情報を表示するには、**show eee status** コマンドを使用します。

次の例では、EEE がイネーブルのインターフェイスの **show eee capabilities** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show eee capabilities interface gigabitethernet1/0/1
Gi1/0/1
    EEE(efficient-ethernet): yes (100-Tx and 1000T auto)
```

```
Link Partner          : yes (100-Tx and 1000T auto)
```

次の例では、EEE がイネーブルでないインターフェイスの **show eee capabilities** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show eee capabilities interface gigabitethernet2/0/1
Gi2/0/1
EEE(efficient-ethernet): not enabled
Link Partner          : not enabled
```

次の例では、EEE がイネーブルで機能しているインターフェイスの **show eee status** コマンドの出力を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

```
Switch# show eee status interface gigabitethernet1/0/4
Gi1/0/4 is up
EEE(efficient-ethernet): Operational
Rx LPI Status          : Received
Tx LPI Status          : Received
```

次の例では、EEE が機能していて、ポートが節電モードであるインターフェイスの **show eee status** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show eee status interface gigabitethernet1/0/3
Gi1/0/3 is up
EEE(efficient-ethernet): Operational
Rx LPI Status          : Low Power
Tx LPI Status          : Low Power
Wake Error Count       : 0
```

次の例では、リモートリンクパートナーがEEEと互換性がないために、EEEがイネーブルでないインターフェイスの **show eee status** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show eee status interface gigabitethernet1/0/3
Gi1/0/3 is down
EEE(efficient-ethernet): Disagreed
Rx LPI Status          : None
Tx LPI Status          : None
Wake Error Count       : 0
```


表 5 : show eee status のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|--------------------------|---|
| EEE (efficient-ethernet) | <p>インターフェイスの EEE ステータス。このフィールドには、次のいずれかの値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • N/A : ポートは EEE に対応できません。 • Disabled : ポートの EEE はディセーブルです。 • Disagreed : リモート リンク パートナーが EEE に互換性がない可能性があるため、ポートの EEE は設定されていません。EEE 対応でないか、EEE の設定に互換性はありません。 • Operational : ポートの EEE がイネーブルで機能しています。 <p>インターフェイスの速度が 10 Mbps として設定されていると、EEE は内部的にディセーブルになります。インターフェイスの速度が auto、100 Mbps または 1000 Mbps に戻ると、EEE は再びアクティブになります。</p> |

| フィールド | 説明 |
|------------------|---|
| Rx/Tx LPI Status | <p>リンク パートナーの低電力アイドル (LPI) ステータス。このフィールドには、次のいずれかの値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • N/A : ポートは EEE に対応できません。 • Interrupted : リンク パートナーは低電力モードへの移行中です。 • Low Power : リンク パートナーは低電力モードにあります。 • None : EEE がディセーブルであるか、リンク パートナー側で対応できません。 • Received : リンク パートナーは低電力モードにあり、トラフィック アクティビティがあります。 <p>インターフェイスが半二重として設定されており、LPI ステータスが「None」の場合、インターフェイスが全二重として設定されるまで、インターフェイスは低電力モードにすることはできないことを意味します。</p> |
| Wake Error Count | <p>発生した PHY wake-up エラーの数 EEE がイネーブルで、リンク パートナーへの接続が切断された場合に、wake-up エラーが発生します。</p> <p>この情報は、PHY のデバッグに役立ちます。</p> |

show env

ファン、温度、および電源情報を表示するには、EXEC モードで **show env** コマンドを使用します。

```
show env {all|fan|power [{all|switch [stack-member-number]]|stack [stack-member-number]
|temperature [status]}
```

| 構文の説明 | |
|----------------------------|--|
| all | ファンと温度環境の状態、および、内部電源を表示します。 |
| fan | スイッチのファンの状態を表示します。 |
| power | アクティブ スイッチの内部電源の状態を表示します。 |
| all | (任意) スイッチでコマンドが入力された場合、スタンドアロン スイッチのすべての内部電源の状態が表示されます。アクティブ スイッチでコマンドが入力された場合は、すべてのスタック メンバのすべての内部電源の状態が表示されます。 |
| switch | (任意) スタック内の各スイッチまたは指定したスイッチの内部電源装置のステータスを表示します。 このキーワードは、スタック構成対応スイッチでだけ使用できます。 |
| <i>stack-member-number</i> | (任意) 内部電源または環境ステータスの状態を表示するスタック メンバの数。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。 |
| stack | スタックの各スイッチまたは指定されたスイッチのすべての環境ステータスを表示します。 このキーワードは、スタック構成対応スイッチでだけ使用できます。 |
| temperature | スイッチの温度ステータスを表示します。 |
| status | (任意) スイッチの内部温度 (外部温度ではなく) およびしきい値を表示します。 |
| コマンドデフォルト | なし |
| コマンドモード | ユーザ EXEC 特権 EXEC |

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|-----------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

アクセスされているスイッチ（スタンドアロンスイッチまたはアクティブスイッチ）の情報を表示するには、**show env EXEC** コマンドを使用します。**stack** および **switch** キーワードとともにこのコマンドを使用すると、スタックまたは指定されたスタックメンバのすべての情報が表示されます。

show env temperature status コマンドを入力すると、コマンド出力にスイッチの温度状態としきい値レベルが表示されます。

show env temperature コマンドを使用して、スイッチの温度状態を表示することもできます。コマンド出力では、GREEN および YELLOW ステートを *OK* と表示し、RED ステートを *FAULTY* と表示します。**show env all** コマンドを入力した場合のコマンド出力は、**show env temperature status** コマンド出力と同じです。

例

次に、**show env all** コマンドの出力例を示します。

```
Switch>show env all
Switch 1 FAN 1 is OK
Switch 1 FAN 2 is OK
Switch 1 FAN 3 is OK
FAN PS-1 is NOT PRESENT
FAN PS-2 is OK
Switch 1: SYSTEM TEMPERATURE is OK
SW  PID                      Serial#      Status      Sys Pwr  PoE Pwr  Watts
--  -----
1A  Not Present
1B  PWR-C1-715WAC             LIT150119Z1 OK          Good     Good     715
```

次に、**show env fan** コマンドの出力例を示します。

```
Switch>show env fan
Switch 1 FAN 1 is OK
Switch 1 FAN 2 is OK
Switch 1 FAN 3 is OK
FAN PS-1 is NOT PRESENT
FAN PS-2 is OK
```

次に、**show env power** コマンドの出力例を示します。

```
Switch>show env power
SW  PID                      Serial#      Status      Sys Pwr  PoE Pwr  Watts
--  -----
1A  Not Present
1B  PWR-C1-715WAC             LIT150119Z1 OK          Good     Good     715
```

次に、アクティブスイッチ上での **show env power all** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show env power all
```

```
SW  PID                Serial#      Status          Sys Pwr  PoE Pwr  Watts
--  -----            -
1A  Not Present
1B  PWR-C1-715WAC       LIT150119Z1 OK            Good     Good     715
```

次に、アクティブ スイッチ上での **show env stack** コマンドの出力例を示します。

```
Switch> show env stack
SWITCH: 1
Switch 1 FAN 1 is OK
Switch 1 FAN 2 is OK
Switch 1 FAN 3 is OK
FAN PS-1 is NOT PRESENT
FAN PS-2 is OK
Switch 1: SYSTEM TEMPERATURE is OK
Temperature Value: 28 Degree Celsius
Temperature State: GREEN
Yellow Threshold : 41 Degree Celsius
Red Threshold    : 56 Degree Celsius
```

次の例では、スタンドアロンスイッチで温度値、ステート、およびしきい値を表示する方法を示します。表に、コマンド出力での温度ステートの説明を示します。

```
Switch> show env temperature status
Temperature Value: 33 Degree Celsius
Temperature State: GREEN
Yellow Threshold : 65 Degree Celsius
Red Threshold    : 75 Degree Celsius
```

表 6: **show env temperature status** コマンド出力のステート

| 状態 | 説明 |
|------|---|
| グリーン | スイッチの温度が正常な動作範囲にあります。 |
| 黄色 | 温度が警告範囲にあります。スイッチの外の周辺温度を確認する必要があります。 |
| 赤 | 温度がクリティカル範囲にあります。温度がこの範囲にある場合、スイッチが正常に実行されない可能性があります。 |

show errdisable detect

error-disabled 検出ステータスを表示するには、EXEC モードで **show errdisable detect** コマンドを使用します。

show errdisable detect

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

gbic-invalid エラーの理由は、無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールを意味します。

コマンド出力内の **errdisable** の理由がアルファベット順に表示されます。Mode 列は、**errdisable** が機能ごとにどのように設定されているかを示します。

errdisable 検出は次のモードで設定できます。

- ポート モード：違反が発生した場合、物理ポート全体が **errdisable** になります。
- VLAN モード：違反が発生した場合、VLAN が **errdisable** になります。
- ポート/VLAN モード：一部のポートでは物理ポート全体が **errdisable** になり、その他のポートでは VLAN ごとに **errdisable** になります。

次の例では、**show errdisable detect** コマンドの出力を示します。

```
Switch> show errdisable detect
ErrDisable Reason    Detection    Mode
-----
arp-inspection       Enabled     port
bpduguard            Enabled     vlan
channel-misconfig    Enabled     port
community-limit      Enabled     port
dhcp-rate-limit      Enabled     port
dtp-flap              Enabled     port
gbic-invalid          Enabled     port
inline-power          Enabled     port
invalid-policy        Enabled     port
l2ptguard             Enabled     port
link-flap             Enabled     port
```

```

loopback          Enabled    port
lsgroup           Enabled    port
pagp-flap         Enabled    port
psecure-violation Enabled    port/vlan
security-violatio Enabled    port
sfp-config-mismat Enabled    port
storm-control     Enabled    port
udld              Enabled    port
vmps              Enabled    port
    
```

関連トピック

[errdisable detect cause](#) (12 ページ)

[show errdisable recovery](#) (72 ページ)

show errdisable recovery

error-disabled 回復タイマー情報を表示するには、EXEC モードで **show errdisable recovery** コマンドを使用します。

show errdisable recovery

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

gbic-invalid error-disable の理由は、無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) インターフェイスを意味します。



(注) unicast-flood フィールドは、出力に表示はされますが無効です。

次の例では、**show errdisable recovery** コマンドの出力を示します。

```
Switch> show errdisable recovery
ErrDisable Reason      Timer Status
-----
udld                   Disabled
bpduguard              Disabled
security-violatio     Disabled
channel-misconfig     Disabled
vmps                   Disabled
pagg-flap              Disabled
dtp-flap               Disabled
link-flap              Enabled
l2ptguard              Disabled
psecure-violation     Disabled
gbic-invalid           Disabled
dhcp-rate-limit       Disabled
unicast-flood         Disabled
storm-control         Disabled
arp-inspection        Disabled
loopback               Disabled
Timer interval:300 seconds
Interfaces that will be enabled at the next timeout:
Interface      Errdisable reason      Time left(sec)
```



```
-----  
Gi1/0/2      link-flap      279
```

関連トピック

[errdisable recovery cause](#) (15 ページ)

[errdisable recovery interval](#) (18 ページ)

[show errdisable detect](#) (70 ページ)

show interfaces

すべてのインターフェイスまたは指定したインターフェイスの管理ステータスおよび動作ステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show interfaces** コマンドを使用します。

```
show interfaces [{interface-id|vlan vlan-id}] [{accounting|capabilities [module number]]|debounce|description|etherchannel|flowcontrol|pruning|stats|status [{err-disabled|inactive}]]trunk}}
```

構文の説明

| | |
|-----------------------------|---|
| <i>interface-id</i> | (任意) インターフェイスの ID です。有効なインターフェイスには、物理ポート (タイプ、スタック構成可能なスイッチのスタックメンバ、モジュール、およびポート番号を含む) やポートチャネルが含まれます。指定できるポートチャネルは 1 ~ 48 です。 |
| vlan <i>vlan-id</i> | (任意) VLAN ID です。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。 |
| accounting | (任意) インターフェイスのアカウント情報 (アクティブプロトコル、入出力のパケット、オクテットを含む) を表示します。 (注) ソフトウェアで処理されたパケットだけが表示されます。ハードウェアでスイッチングされるパケットは表示されません。 |
| capabilities | (任意) すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスの性能 (機能、インターフェイス上で設定可能なオプションを含む) を表示します。このオプションはコマンドラインのヘルプに表示されますが、VLAN ID に使用できません。 |
| module <i>number</i> | (任意) スイッチまたは指定されたスタックメンバーのすべてのインターフェイスの機能を表示します。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。 このオプションは、特定のインターフェイス ID を入力したときは利用できません。 |
| debounce | (任意) インターフェイスのポートデバウンスタイマー情報を表示します。 |
| description | (任意) 特定のインターフェイスに設定された管理ステータスおよび説明を表示します。 |

| | |
|---------------------|--|
| etherchannel | (任意) インターフェイス EtherChannel 情報を表示します。 |
| flowcontrol | (任意) インターフェイスのフロー制御情報を表示します。 |
| mtu | (任意) 各インターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対応する MTU を表示します。 |
| pruning | (任意) インターフェイスのトランク VTP プルーニング情報を表示します。 |
| stats | (任意) インターフェイスのパスを切り替えることによる入出力パケットを表示します。 |
| status | (任意) インターフェイスのステータスを表示します。Type フィールドの unsupported のステータスは、他社製の Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールがモジュール スロットに装着されていることを示しています。 |
| err-disabled | (任意) errdisable ステートのインターフェイスを表示します。 |
| inactive | (任意) 非アクティブ ステートのインターフェイスを表示します。 |
| trunk | (任意) インターフェイス トランク情報を表示します。インターフェイスを指定しない場合は、アクティブなトランcking ポートの情報だけが表示されます。 |



(注) **crb**、**fair-queue**、**irb**、**mac-accounting**、**precedence**、**random-detect**、および **rate-limit** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、サポートされていません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show interfaces capabilities コマンドに異なるキーワードを指定することで、次のような結果になります。

- **show interface capabilities module number** コマンドを使用して、スタックのスイッチ上のすべてのインターフェイスの機能を表示します。スタック内に該当するモジュール番号を持つスイッチがない場合、出力はありません。
- 指定されたインターフェイスの機能を表示するには、**show interfaces interface-id capabilities** を使用します。
- スタック内のすべてのインターフェイスの機能を表示するには、**show interfaces capabilities** を使用します（モジュール番号またはインターフェイス ID の指定なし）。

次の例では、スタック メンバ 3 のインターフェイスに対する **show interfaces** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet3/0/2
GigabitEthernet3/0/2 is down, line protocol is down (notconnect)
  Hardware is Gigabit Ethernet, address is 2037.064d.4381 (bia 2037.064d.4381)
  MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit/sec, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA, loopback not set
  Keepalive set (10 sec)
  Auto-duplex, Auto-speed, media type is 10/100/1000BaseTX
  input flow-control is off, output flow-control is unsupported
  ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
  Last input never, output never, output hang never
  Last clearing of "show interface" counters never
  Input queue: 0/2000/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0
  Queueing strategy: fifo
  Output queue: 0/40 (size/max)
  5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
  5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
    0 packets input, 0 bytes, 0 no buffer
  Received 0 broadcasts (0 multicasts)
    0 runs, 0 giants, 0 throttles
    0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
    0 watchdog, 0 multicast, 0 pause input
    0 input packets with dribble condition detected
    0 packets output, 0 bytes, 0 underruns
    0 output errors, 0 collisions, 1 interface resets
    0 unknown protocol drops
    0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
    0 lost carrier, 0 no carrier, 0 pause output
    0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
```

次の例では、**show interfaces accounting** コマンドの出力を示します。

次の例では、インターフェイスに対する **show interfaces capabilities** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/2 capabilities
GigabitEthernet1/0/2
  Model: UA-3850-24-CR
  Type: 10/100/1000BaseTX
  Speed: 10,100,1000,auto
  Duplex: full,half,auto
  Trunk encap. type: 802.1Q
  Trunk mode: on,off,desirable,nonegotiate
  Channel: yes
  Fast Start: yes
  QoS scheduling: rx-(not configurable on per port basis),
```

```

tx-(4q3t) (3t: Two configurable values and one fixed.)
CoS rewrite:      yes
ToS rewrite:      yes
UDLD:             yes
Inline power:     no
SPAN:             source/destination
PortSecure:       yes
Dot1x:            yes
    
```

次の例では、**description** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイスを *Connects to Marketing* として指定した場合の **show interfaces interfacedescription** コマンドの出力を示します。

```

Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/2 description
Interface          Status          Protocol Description
Gi1/0/2            up              down       Connects to Marketing
    
```

次の例では、スイッチにポート チャネルが設定されている場合の **show interfaces etherchannel** コマンドの出力を示します。

```

Switch# show interfaces etherchannel
-----
Port-channel34:
Age of the Port-channel   = 28d:18h:51m:46s
Logical slot/port        = 12/34          Number of ports = 0
GC                        = 0x00000000      HotStandBy port = null
Passive port list        =
Port state                = Port-channel L3-Ag Ag-Not-Inuse
Protocol                  = -
Port security             = Disabled
    
```

次の例では、VTP ドメイン内でプルーンングがイネーブルの場合の **show interfaces interface-id pruning** コマンドの出力を示します。

```

Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/2 pruning
Port      Vlans pruned for lack of request by neighbor
Gi1/0/2   3,4

Port      Vlans traffic requested of neighbor
Gi1/0/2   1-3
    
```

次の例では、指定した VLAN インターフェイスの **show interfaces stats** コマンドの出力を示します。

```

Switch# show interfaces vlan 1 stats
Switching path  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
  Processor    1165354   136205310  570800     91731594
  Route cache      0         0          0          0
  Total        1165354   136205310  570800     91731594
    
```

次の例では、**show interfaces status** コマンドの出力の一部を示します。すべてのインターフェイスのステータスが表示されます。

次に、**show interfaces interface-idstatus** コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/20 status
Port  Name          Status      Vlan    Duplex  Speed    Type
Gi1/0/20                notconnect  1        auto    auto    10/100/1000Ba
    
```

```
seTX
```

次の例では、**show interfaces status err-disabled** コマンドの出力を示します。errdisable ステータスのインターフェイスのステータスを表示します。

```
Switch# show interfaces status err-disabled
Port      Name      Status      Reason
Gi1/0/2   err-disabled  gbic-invalid
Gi2/0/3   err-disabled  dtp-flap
```

次の例では、**show interfaces interface-id pruning** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/2 pruning
Port Vlans pruned for lack of request by neighbor
```

次の例では、**show interfaces interface-id trunk** コマンドの出力を示します。ポートのトランッキング情報が表示されます。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/1 trunk
Port      Mode      Encapsulation  Status      Native vlan
Gi1/0/1   on        802.1q         other       10

Port      Vlans allowed on trunk
Gi1/0/1   none

Port      Vlans allowed and active in management domain
Gi1/0/1   none

Port      Vlans in spanning tree forwarding state and not pruned
Gi1/0/1   none
```

関連トピック

[show interfaces counters](#) (79 ページ)

[show interfaces switchport](#) (82 ページ)

[show interfaces transceiver](#) (86 ページ)

show interfaces counters

スイッチまたは特定のインターフェイスのさまざまなカウンタを表示するには、特権 EXEC モードで **show interfaces counters** コマンドを使用します。

show interfaces [*interface-id*] **counters** [{**errors**|**etherchannel**|**module** *stack-member-number*|**protocol** **status**|**trunk**}]

| 構文の説明 | |
|---|---|
| <i>interface-id</i> | (任意) 物理インターフェイスの ID (タイプ、スタック メンバ (スタック構成可能なスイッチのみ)、モジュール、ポート番号を含む)。 |
| errors | (任意) エラー カウンタを表示します。 |
| etherchannel | (任意) 送受信されたオクテット、ブロードキャスト パケット、マルチキャスト パケット、およびユニキャスト パケットなど、EtherChannel カウンタを表示します。 |
| module <i>stack-member-number</i> | (任意) 指定されたスタック メンバのカウンタを表示します。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。 (注) このコマンドでは、 module キーワードはスタック メンバ番号を参照しています。インターフェイス ID に含まれるモジュール番号は、常に 0 です。 |
| protocol status | (任意) インターフェイスでイネーブルになっているプロトコルのステータスを表示します。 |
| trunk | (任意) トランク カウンタを表示します。 |



(注) **vlan** *vlan-id* キーワードは、コマンドラインのヘルプ文字列には表示されますが、サポートされていません。

| コマンド デフォルト | なし | | | | |
|------------------------|--|------|------|------------------------|-----------------|
| コマンド モード | 特権 EXEC | | | | |
| コマンド履歴 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE 3.2SE、、、、</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table> | リリース | 変更内容 | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |
| リリース | 変更内容 | | | | |
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 | | | | |

使用上のガイドライン キーワードを入力しない場合は、すべてのインターフェイスのすべてのカウンタが表示されます。

次の例では、**show interfaces counters** コマンドの出力の一部を示します。スイッチのすべてのカウンタが表示されます。

```
Switch# show interfaces counters
Port          InOctets      InUcastPkts    InMcastPkts    InBcastPkts
Gi1/0/1       0              0               0               0
Gi1/0/2       0              0               0               0
Gi1/0/3       95285341      43115           1178430        1950
Gi1/0/4       0              0               0               0

<output truncated>
```

次の例では、スタック メンバ2 に対する **show interfaces counters module** コマンドの出力の一部を示します。スタック内で指定されたスイッチのすべてのカウンタが表示されます。

```
Switch# show interfaces counters module 2
Port          InOctets      InUcastPkts    InMcastPkts    InBcastPkts
Gi1/0/1       520           2               0               0
Gi1/0/2       520           2               0               0
Gi1/0/3       520           2               0               0
Gi1/0/4       520           2               0               0

<output truncated>
```

次の例では、すべてのインターフェイスに対する **show interfaces counters protocol status** コマンドの出力の一部を示します。

```
Switch# show interfaces counters protocol status
Protocols allocated:
Vlan1: Other, IP
Vlan20: Other, IP, ARP
Vlan30: Other, IP, ARP
Vlan40: Other, IP, ARP
Vlan50: Other, IP, ARP
Vlan60: Other, IP, ARP
Vlan70: Other, IP, ARP
Vlan80: Other, IP, ARP
Vlan90: Other, IP, ARP
Vlan900: Other, IP, ARP
Vlan3000: Other, IP
Vlan3500: Other, IP
GigabitEthernet1/0/1: Other, IP, ARP, CDP
GigabitEthernet1/0/2: Other, IP
GigabitEthernet1/0/3: Other, IP
GigabitEthernet1/0/4: Other, IP
GigabitEthernet1/0/5: Other, IP
GigabitEthernet1/0/6: Other, IP
GigabitEthernet1/0/7: Other, IP
GigabitEthernet1/0/8: Other, IP
GigabitEthernet1/0/9: Other, IP
GigabitEthernet1/0/10: Other, IP, CDP

<output truncated>
```

次の例では、**show interfaces counters trunk** コマンドの出力を示します。すべてのインターフェイスのトランク カウンタが表示されます。


```
Switch# show interfaces counters trunk
Port          TrunkFramesTx  TrunkFramesRx  WrongEncap
Gi1/0/1       0               0               0
Gi1/0/2       0               0               0
Gi1/0/3       80678          0               0
Gi1/0/4       82320          0               0
Gi1/0/5       0               0               0
```

<output truncated>

関連トピック

[show interfaces](#) (74 ページ)

show interfaces switchport

ポートブロッキング、ポート保護設定など、スイッチング（非ルーティング）ポートの管理ステータスおよび動作ステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show interfaces switchport** コマンドを使用します。

show interfaces [*interface-id*] **switchport** [{**backup** [**detail**]**module number**}]

構文の説明

| | |
|----------------------|--|
| <i>interface-id</i> | (任意) インターフェイスの ID です。有効なインターフェイスには、物理ポート（タイプ、スタック構成可能なスイッチのスタックメンバ、モジュール、およびポート番号を含む）やポートチャンネルが含まれます。指定できるポートチャンネルは 1 ~ 48 です。 |
| backup | (任意) 指定したインターフェイスまたはすべてのインターフェイスの Flex Link バックアップインターフェイスコンフィギュレーションを表示します。 |
| detail | (任意) スイッチまたはスタック上の指定したインターフェイスまたはすべてのインターフェイスの詳細なバックアップ情報を表示します。 |
| module number | (任意) スイッチまたは指定されたスタックメンバのすべてのインターフェイスのスイッチポート設定を表示します。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。 このオプションは、特定のインターフェイス ID を入力したときは利用できません。 |

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

スタックのスイッチ上のすべてのインターフェイスのスイッチポート特性を表示するには、**show interface switchport module number** コマンドを使用します。スタック内に該当するモジュール番号を持つスイッチがない場合、出力はありません。

次の例では、ポートの **show interfaces switchport** コマンドの出力を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。



(注) プライベート VLAN はこのリリースではサポートされないため、フィールドは適用されません。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/0/1 switchport
Name: Gi1/0/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: trunk
Operational Mode: down
Administrative Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: On
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 10 (VLAN0010)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings: none
Operational private-vlan: none
Trunking VLANs Enabled: 11-20
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL

Protected: false
Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
```

| フィールド | 説明 |
|--|---|
| 名前 | ポート名を表示します。 |
| Switchport | ポートの管理ステータスおよび動作ステータスを表示します。この出力の場合、ポートはスイッチポートモードです。 |
| Administrative Mode 動作モード | 管理モードおよび動作モードを表示します。 |
| Administrative Trunking Encapsulation Operational Trunking Encapsulation Negotiation of Trunking | 管理上および運用上のカプセル化方式、およびトランキング ネゴシエーションがイネーブルかどうかを表示します。 |
| Access Mode VLAN | ポートを設定する VLAN ID を表示します。 |

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| Trunking Native Mode VLAN Trunking VLANs Enabled Trunking VLANs Active | ネイティブ モードのトランクの VLAN ID を一覧表示します。トランク上の許可 VLAN を一覧表示します。トランク上のアクティブ VLAN を一覧表示します。 |
| Pruning VLANs Enabled | プルーニングに適格な VLAN を一覧表示します。 |
| Protected | インターフェイス上で保護ポートがイネーブル (True) であるかまたはディセーブル (False) であるかを表示します。 |
| Unknown unicast blocked Unknown multicast blocked | 不明なマルチキャストおよび不明なユニキャストトラフィックがインターフェイス上でブロックされているかどうかを表示します。 |
| 音声 VLAN | 音声 VLAN がイネーブルである VLAN ID を表示します。 |
| Appliance trust | IP Phone のデータ パケットのサービス クラス (CoS) 設定を表示します。 |

次の例では、**show interfaces switchport backup** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show interfaces switchport backup
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
Gi1/0/1              Gi1/0/2              Active Up/Backup Standby
Gi3/0/3              Gi4/0/5              Active Down/Backup Up
Po1                  Po2                  Active Standby/Backup Up
```

show interfaces switchport backup コマンドからの出力例では、スイッチに VLAN 1 ~ 50、60、および 100 ~ 120 が設定されています。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet 2/0/6
Switch(config-if)# switchport backup interface gigabitethernet 2/0/8
prefer vlan 60,100-120
```

両方のインターフェイスが動作中の場合は、Gi2/0/8 が VLAN 60 および VLAN 100 ~ 120 のトラフィックを転送し、Gi2/0/6 が VLAN 1 ~ 50 のトラフィックを転送します。

```
Switch# show interfaces switchport backup

Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet2/0/6  GigabitEthernet2/0/8  Active Up/Backup Up
Vlans on Interface Gi 2/0/6: 1-50
Vlans on Interface Gi 2/0/8: 60, 100-120
```

Flex Link インターフェイスがダウンすると (LINK_DOWN)、このインターフェイスで優先される VLAN は、Flex Link ペアのピア インターフェイスに移動します。この例では、インターフェイス Gi2/0/6 がダウンして、Gi2/0/8 が Flex Link ペアのすべての VLAN を引き継ぎます。

Switch# **show interfaces switchport backup**

```
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet2/0/6  GigabitEthernet2/0/8  Active Down/Backup Up
Vlans on Interface Gi 2/0/6:
Vlans on Interface Gi 2/0/8: 1-50, 60, 100-120
```

Flex Link インターフェイスがアップになると、このインターフェイスで優先される VLAN はピア インターフェイスでブロックされ、アップしたインターフェイスでフォワーディング ステートになります。この例では、インターフェイス Gi2/0/6 がアップになると、このインターフェイスで優先される VLAN はピア インターフェイス Gi2/0/8 でブロックされ、Gi2/0/6 で転送されます。

Switch# **show interfaces switchport backup**

```
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet2/0/6  GigabitEthernet2/0/8  Active Up/Backup Up
Vlans on Interface Gi 2/0/6: 1-50
Vlans on Interface Gi 2/0/8: 60, 100-120
```

関連トピック

[show interfaces](#) (74 ページ)

show interfaces transceiver

SFP モジュール インターフェイスの物理インターフェイスを表示するには、EXEC モードで **show interfaces transceiver** コマンドを使用します。

show interfaces [*interface-id*] **transceiver** [{*detail*|*module number*|*properties*|*supported-list*|*threshold-table*}]

| | | |
|-------|------------------------|---|
| 構文の説明 | <i>interface-id</i> | (任意) 物理インターフェイスの ID (タイプ、スタックメンバ (スタック構成可能なスイッチのみ)、モジュール、ポート番号を含む)。 |
| | detail | (任意) (スイッチにインストールされている場合) Digital Optical Monitoring (DoM) 対応トランシーバの高低値やアラーム情報などの、調整プロパティを表示します。 |
| | module number | (任意) スイッチのモジュールのインターフェイスへの表示を制限します。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。 このオプションは、特定のインターフェイス ID を入力したときは利用できません。 |
| | properties | (任意) インターフェイスの速度、デュプレックス、およびインラインパワー設定を表示します。 |
| | supported-list | (任意) サポートされるトランシーバをすべて表示します。 |
| | threshold-table | (任意) アラームおよび警告しきい値テーブルを表示します。 |

| | |
|---------|---------------------|
| コマンドモード | ユーザ EXEC 特権 EXEC |
|---------|---------------------|

| | | |
|--------|------------------------|-----------------|
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

次に、**show interfaces interface-id transceiver properties** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/1/1 transceiver properties
Name : Gil/1/1
Administrative Speed: auto
Operational Speed: auto
Administrative Duplex: auto
Administrative Power Inline: enable
Operational Duplex: auto
Administrative Auto-MDIX: off
```

Operational Auto-MDIX: off

次に、**show interfaces interface-id transceiver detail** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show interfaces gigabitethernet1/1/1 transceiver detail
ITU Channel not available (Wavelength not available),
Transceiver is internally calibrated.
mA:milliamperes, dBm:decibels (milliwatts), N/A:not applicable.
++:high alarm, +:high warning, -:low warning, -- :low alarm.
A2D readouts (if they differ), are reported in parentheses.
The threshold values are uncalibrated.
```

| Port | Temperature (Celsius) | High Alarm Threshold (Celsius) | High Warn Threshold (Celsius) | Low Warn Threshold (Celsius) | Low Alarm Threshold (Celsius) |
|---------|-----------------------|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| Gil/1/1 | 29.9 | 74.0 | 70.0 | 0.0 | -4.0 |

| Port | Voltage (Volts) | High Alarm Threshold (Volts) | High Warn Threshold (Volts) | Low Warn Threshold (Volts) | Low Alarm Threshold (Volts) |
|---------|-----------------|------------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| Gil/1/1 | 3.28 | 3.60 | 3.50 | 3.10 | 3.00 |

| Port | Optical Transmit Power (dBm) | High Alarm Threshold (dBm) | High Warn Threshold (dBm) | Low Warn Threshold (dBm) | Low Alarm Threshold (dBm) |
|---------|------------------------------|----------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| Gil/1/1 | 1.8 | 7.9 | 3.9 | 0.0 | -4.0 |

| Port | Optical Receive Power (dBm) | High Alarm Threshold (dBm) | High Warn Threshold (dBm) | Low Warn Threshold (dBm) | Low Alarm Threshold (dBm) |
|---------|-----------------------------|----------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| Gil/1/1 | -23.5 | -5.0 | -9.0 | -28.2 | -32.2 |

次に、**show interfaces transceiver threshold-table** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show interfaces transceiver threshold-table
```

| | Optical Tx | Optical Rx | Temp | Laser Bias current | Voltage |
|------------------|------------|------------|------|--------------------|---------|
| DWDM GBIC | | | | | |
| Min1 | -4.00 | -32.00 | -4 | N/A | 4.65 |
| Min2 | 0.00 | -28.00 | 0 | N/A | 4.75 |
| Max2 | 4.00 | -9.00 | 70 | N/A | 5.25 |
| Max1 | 7.00 | -5.00 | 74 | N/A | 5.40 |
| DWDM SFP | | | | | |
| Min1 | -4.00 | -32.00 | -4 | N/A | 3.00 |
| Min2 | 0.00 | -28.00 | 0 | N/A | 3.10 |
| Max2 | 4.00 | -9.00 | 70 | N/A | 3.50 |
| Max1 | 8.00 | -5.00 | 74 | N/A | 3.60 |
| RX only WDM GBIC | | | | | |
| Min1 | N/A | -32.00 | -4 | N/A | 4.65 |
| Min2 | N/A | -28.30 | 0 | N/A | 4.75 |
| Max2 | N/A | -9.00 | 70 | N/A | 5.25 |
| Max1 | N/A | -5.00 | 74 | N/A | 5.40 |
| DWDM XENPAK | | | | | |
| Min1 | -5.00 | -28.00 | -4 | N/A | N/A |
| Min2 | -1.00 | -24.00 | 0 | N/A | N/A |
| Max2 | 3.00 | -7.00 | 70 | N/A | N/A |

```

Max1          7.00          -3.00          74          N/A          N/A
  DWDM X2
Min1          -5.00         -28.00         -4          N/A          N/A
Min2          -1.00         -24.00          0          N/A          N/A
Max2           3.00          -7.00          70          N/A          N/A
Max1          7.00          -3.00          74          N/A          N/A
  DWDM XFP
Min1          -5.00         -28.00         -4          N/A          N/A
Min2          -1.00         -24.00          0          N/A          N/A
Max2           3.00          -7.00          70          N/A          N/A
Max1          7.00          -3.00          74          N/A          N/A
  CWDM X2
Min1          N/A           N/A            0          N/A          N/A
Min2          N/A           N/A            0          N/A          N/A
Max2          N/A           N/A            0          N/A          N/A
Max1          N/A           N/A            0          N/A          N/A

```

<output truncated>

関連トピック

[show interfaces](#) (74 ページ)

show mgmt-infra trace messages ilpower

トレース バッファ内のインライン パワーのメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **show mgmt-infra trace messages ilpower** コマンドを使用します。

show mgmt-infra trace messages ilpower [*switch stack-member-number*]

| | | |
|------------|---|---|
| 構文の説明 | switch <i>stack-member-number</i> | (任意) トレース バッファ内のインライン パワーのメッセージ を表示するスタック メンバ番号を指定します。 |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されまし た。 |

次に、**show mgmt-infra trace messages ilpower** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show mgmt-infra trace messages ilpower
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 1 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 1.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 2 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 2.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 3 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 3.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 4 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 4.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 5 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 5.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 6 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 6.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 7 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 7.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 8 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 8.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 9 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 9.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC a 3] Inline power subsystem initialized.
[10/23/12 14:05:18.908 UTC b 264] Create new power pool for slot 1
[10/23/12 14:05:18.909 UTC c 264] Set total inline power to 450 for slot 1
[10/23/12 14:05:20.273 UTC d 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.288 UTC e 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.299 UTC f 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.311 UTC 10 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.373 UTC 11 98] Inline power process post for switch 1
[10/23/12 14:05:20.373 UTC 12 98] PoE post passed on switch 1
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 13 3] Slot #1: PoE initialization for board id 16387
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 14 3] Set total inline power to 450 for slot 1
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 15 3] Gi1/0/1 port config Initialized
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 16 3] Interface Gi1/0/1 initialization done.
[10/23/12 14:05:20.380 UTC 17 3] Gi1/0/24 port config Initialized
```

```
[10/23/12 14:05:20.380 UTC 18 3] Interface Gi1/0/24 initialization done.  
[10/23/12 14:05:20.380 UTC 19 3] Slot #1: initialization done.  
[10/23/12 14:05:50.440 UTC 1a 3] Slot #1: PoE initialization for board id 16387  
[10/23/12 14:05:50.440 UTC 1b 3] Duplicate init event
```

関連トピック

[show mgmt-infra trace messages ilpower-ha](#) (91 ページ)

[show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe](#) (92 ページ)

show mgmt-infra trace messages ilpower-ha

トレース バッファ内のインライン パワーのハイ アベイラビリティのメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **show mgmt-infra trace messages ilpower-ha** コマンドを使用します。

show mgmt-infra trace messages ilpower-ha [*switch stack-member-number*]

| | | |
|------------|---|---|
| 構文の説明 | switch <i>stack-member-number</i> | (任意) トレース バッファ内のインライン パワーのメッセージ を表示するスタック メンバ番号を指定します。 |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。 | |

次に、**show mgmt-infra trace messages ilpower-ha** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show mgmt-infra trace messages ilpower-ha
[10/23/12 14:04:48.087 UTC 1 3] NG3K_ILPOWER_HA: Created NGWC ILP CF client succ
essfully.
```

関連トピック

[show mgmt-infra trace messages ilpower](#) (89 ページ)

[show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe](#) (92 ページ)

show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe

トレース バッファ内のプラットフォーム マネージャの Power over Ethernet (PoE) メッセージを表示するには、**show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe** 特権 EXEC コマンドを使用します。

show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe [*switch stack-member-number*]

| | | |
|------------|---|--|
| 構文の説明 | switch <i>stack-member-number</i> | (任意) トレース バッファ内のメッセージを表示するスタックメンバ番号を指定します。 |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

次に、**show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe** コマンドの一部の出力例を示します。

```
Switch# show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 1 5495] PoE Info: get power controller param sent:
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 2 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 1 (0:0)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 3 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 2 (0:1)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 4 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 3 (0:2)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 5 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 4 (0:3)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 6 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 5 (0:4)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 7 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 6 (0:5)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 8 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 7 (0:6)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 9 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 8 (0:7)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC a 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 9 (0:8)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC b 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 10 (0:9)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC c 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 11 (0:10)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC d 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 12 (0:11)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC e 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 13 (e:0)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC f 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 14 (e:1)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 10 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 15 (e:2)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 11 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 16 (e:3)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 12 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 17 (e:4)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 13 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 18 (e:5)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 14 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 19 (e:6)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 15 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 20 (e:7)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 16 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 21 (e:8)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 17 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 22 (e:9)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 18 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 23 (e:10)
```

関連トピック

[show mgmt-infra trace messages ilpower](#) (89 ページ)

[show mgmt-infra trace messages ilpower-ha](#) (91 ページ)

show network-policy profile

ネットワークポリシープロファイルを表示するには、特権 EXEC モードで **show network policy profile** コマンドを使用します。

show network-policy profile [*profile-number*]

| | | |
|------------|--|-----------------|
| 構文の説明 | <i>profile-number</i> (任意) ネットワークポリシープロファイル番号を表示します。プロファイルが入力されていない場合、すべてのネットワークポリシープロファイルが表示されます。 | |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

次の例では、**show network-policy profile** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show network-policy profile
Network Policy Profile 60
  Interface:
    none
```

関連トピック

[network-policy](#) (32 ページ)

[network-policy profile \(グローバル コンフィギュレーション\)](#) (33 ページ)

show platform CAPWAP summary

アクセス ポイントと他のモビリティ コントローラに対してコントローラが確立するすべての CAPWAP トンネルのトンネル識別子およびタイプを表示するには、**show platform CAPWAP summary** コマンドを使用します。

show platform CAPWAP summary

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|---------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 |

次に、トンネルの識別子と詳細を表示する例を示します。

```
Switch# show platform capwap summary
Tunnel ID | Type | Src IP | Dst IP | SPrt | DPrt | S | A
-----
0x0088498000000983 data 9.6.44.61 9.12.138.101 5247 41894 1 1
0x00966dc000000010 data 9.6.44.61 9.6.47.101 5247 62526 1 2
0x00938e800000095b data 9.6.44.61 9.12.138.100 5247 45697 1 1
0x00ab1a8000000bd1 data 9.6.44.61 9.12.139.101 5247 38906 1 0
0x00896e40000000bd data 9.6.44.61 9.12.136.100 5247 1836 1 1
```

show power inline

指定された PoE ポート、指定されたスタック メンバ、またはスイッチスタックのすべての PoE ポートの PoE ステータスを表示するには、EXEC モードで **show power inline** コマンドを使用します。

show power inline [**{police|priority}**] [**{interface-id|module stack-member-number}**] [**detail**]

構文の説明

| | |
|-----------------------------------|--|
| police | (任意) リアルタイムの電力消費に関するパワー ポリシング情報を表示します。 |
| priority | (任意) 各ポートのパワー インライン ポート プライオリティを表示します。 |
| <i>interface-id</i> | (任意) 物理インターフェイスの ID です。 |
| module stack-member-number | (任意) 指定されたスタック メンバのポートだけを表示します。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。 このキーワードは、スタック対応スイッチでのみサポートされています。 |
| detail | (任意) インターフェイスまたはモジュールの詳細な出力を表示します。 |

コマンドモード

ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

例

次の例では、**show power inline** コマンドの出力を示します。次の表に、出力フィールドについて説明します。

```
Switch> show power inline
Module Available Used Remaining
(Watts) (Watts) (Watts)
-----
1 n/a n/a n/a
2 n/a n/a n/a
3 1440.0 15.4 1424.6
4 720.0 6.3 713.7
Interface Admin Oper Power Device Class Max
```



```

(Watts)
-----
Gi3/0/1   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/2   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/3   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/4   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/5   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/6   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/7   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/8   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/9   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/10  auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/11  auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
Gi3/0/12  auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0
<output truncated>

```

次の例では、スイッチポートに対する **show power inline interface-id** コマンドの出力を示します。

```

Switch> show power inline gigabitethernet1/0/1
Interface Admin Oper      Power Device      Class Max
              (Watts)
-----
Gi1/0/1   auto   off    0.0   n/a    n/a    30.0

```

次の例では、スタックメンバ 3 での **show power inline module switch-number** コマンドの出力を示します。次の表に、出力フィールドについて説明します。

```

Switch> show power inline module 3
Module   Available      Used      Remaining
         (Watts)      (Watts)   (Watts)
-----
3         865.0         864.0     1.0
Interface Admin Oper      Power Device      Class Max
              (Watts)
-----
Gi3/0/1   auto   power-deny 4.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/2   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/3   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/4   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/5   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/6   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/7   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/8   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/9   auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
Gi3/0/10  auto   off    0.0   n/a    n/a    15.4
<output truncated>

```

表 7: show power inline のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|-----------|---|
| Available | スイッチ上の設定電力 ³ の合計で、ワット数 (W) です。 |
| Used | PoE ポートに割り当てられている設定電力の合計で、ワット数です。 |
| Remaining | システムで割り当てられていない設定電力の合計 (ワット数) です。 (Available - Used = Remaining) |

| フィールド | 説明 |
|------------------|--|
| Admin | 管理モード : auto、off、static |
| Oper | 動作モード : <ul style="list-style-type: none"> • on : 受電デバイスが検出され、電力が適用されています。 • off : PoE が適用されていません。 • faulty : 装置検出または受電デバイスが障害の状態です。 • power-deny : 受電デバイスが検出されていますが、PoE が使用できない状態か、最大ワット数が検出された受電デバイスの最大数を超えています。 |
| 電源 | 受電デバイスに割り当てられている最大電力の合計で、ワット数です。この値は、 show power inline police コマンドの出力の <i>Cutoff Power</i> フィールドの値と同じです。 |
| デバイス | 検出された装置のタイプ : n/a、unknown、Cisco 受電装置、IEEE 受電装置、または CDP からの名前。 |
| クラス | IEEE 分類 : n/a または 0 ~ 4 の値。 |
| Max | 受電デバイスに割り当てられている最大電力の合計で、ワット数です。 |
| AdminPowerMax | スイッチがリアルタイム電力消費をポリシングする場合に、受電デバイスに割り当てられる電力の最大量です (ワット単位)。この値は、 <i>Max</i> フィールドの値と同じです。 |
| AdminConsumption | スイッチがリアルタイム電力消費をポリシングする場合に、受電デバイスに割り当てられる電力の消費量です (ワット単位)。ポリシングがディセーブルである場合、この値は <i>AdminPowerMax</i> フィールドの値と同じです。 |

³ 設定電力とは、手動で指定する電力、または CDP 電力ネゴシエーションまたは IEEE 分類を使用してスイッチが指定する電力 (電力検知機能によってモニタされるリアルタイムの電力とは異なります) です。

次の例では、スタッキング対応スイッチに対する **show power inline police** コマンドの出力を示します。

```
Switch> show power inline police
Module   Available   Used         Remaining
         (Watts)    (Watts)     (Watts)
-----
1         370.0      0.0         370.0
3         865.0      864.0       1.0

         Admin  Oper      Admin   Oper      Cutoff  Oper
Interface State  State    Police  Police    Power   Power
-----
Gi1/0/1  auto  off      none    n/a      n/a     0.0
Gi1/0/2  auto  off      log     n/a      5.4     0.0
Gi1/0/3  auto  off      errdisable n/a     5.4     0.0
```

```

Gi1/0/4   off   off       none      n/a       n/a       0.0
Gi1/0/5   off   off       log       n/a       5.4       0.0
Gi1/0/6   off   off       errdisable n/a       5.4       0.0
Gi1/0/7   auto  off       none      n/a       n/a       0.0
Gi1/0/8   auto  off       log       n/a       5.4       0.0
Gi1/0/9   auto  on        none      n/a       n/a       5.1
Gi1/0/10  auto  on        log       ok        5.4       4.2
Gi1/0/11  auto  on        log       log       5.4       5.9
Gi1/0/12  auto  on        errdisable ok        5.4       4.2
Gi1/0/13  auto  errdisable errdisable n/a       5.4       0.0
<output truncated>

```

上の例では、次のようになっています。

- **Gi1/0/1** ポートはシャットダウンしていて、ポリシングは設定されていません。
- **Gi1/0/2** ポートはシャットダウンしていますが、ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとして **syslog** メッセージを生成するよう設定されています。
- **Gi1/0/3** ポートはシャットダウンしていますが、ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとしてポートをシャットダウンするよう設定されています。
- **Gi1/0/4** ポートでは、デバイス検出がディセーブルであり、ポートに電力が供給されておらず、ポリシングがディセーブルです。
- **Gi1/0/5** ポートでは、デバイス検出がディセーブルであり、ポートに電力が供給されていませんが、ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとして **syslog** メッセージを生成するよう設定されています。
- **Gi1/0/6** ポートでは、デバイス検出がディセーブルであり、ポートに電力が供給されていませんが、ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとしてポートをシャットダウンするよう設定されています。
- **Gi1/0/7** ポートはアップしていて、ポリシングはディセーブルですが、接続されている装置に対してスイッチから電力が供給されていません。
- **Gi1/0/8** ポートはアップしていて、ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとして **syslog** メッセージを生成するよう設定されていますが、受電デバイスに対してスイッチから電力が供給されていません。
- **Gi1/0/9** ポートはアップしていて、受電デバイスが接続されており、ポリシングはディセーブルです。
- **Gi1/0/10** ポートはアップしていて、受電デバイスが接続されています。ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとして **syslog** メッセージを生成するよう設定されています。リアルタイム電力消費がカットオフ値より少ないため、ポリシングアクションは作動しません。
- **Gi1/0/11** ポートはアップしていて、受電デバイスが接続されています。ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとして **syslog** メッセージを生成するよう設定されています。
- **Gi1/0/12** ポートはアップしていて、受電デバイスが接続されています。ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとしてポートをシャットダウンするよう設定されています。リアルタイム電力消費がカットオフ値より少ないため、ポリシングアクションは作動しません。

- Gi1/0/13 ポートはアップしていて、受電デバイスが接続されています。ポリシングはイネーブルであり、ポリシングアクションとしてポートをシャットダウンするように設定されています。

次の例では、スタンドアロン スイッチに対する **show power inline police interface-id** コマンドの出力を示します。次の表に、出力フィールドについて説明します。

```
Switch> show power inline police gigabitethernet1/0/1
Interface Admin Oper      Admin      Oper      Cutoff Oper
           State State      Police     Police     Power  Power
-----
Gi1/0/1   auto   off       none       n/a       n/a    0.0
```

表 8 : show power inline police のフィールドの説明

| フィールド | 説明 |
|--------------|---|
| Available | スイッチ上の設定電力 ⁴ |
| Used | PoE ポートに割り当てられている設定電力の合計で、ワット数です。 |
| Remaining | システムで割り当てられていない設定電力の合計（ワット数）です。（Available - Used = Remaining） |
| Admin State | 管理モード : auto、off、static |
| Oper State | 動作モード : <ul style="list-style-type: none"> • errdisable : ポリシングはイネーブルです。 • faulty : 受電デバイスでの装置検出が障害の状態です。 • off : PoE が適用されていません。 • on : 受電デバイスが検出され、電力が適用されています。 • power-deny : 受電デバイスが検出されていますが、PoE が使用できない状態か、リアルタイム電力消費が最大電力割り当てを超えています。 (注) 動作モードは、指定した PoE ポート、指定したスタック メンバ、またはスイッチのすべての PoE ポートの現在の PoE ステートです。 |
| Admin Police | リアルタイム電力消費ポリシング機能のステータス : <ul style="list-style-type: none"> • errdisable : ポリシングがイネーブルで、リアルタイム電力消費が最大電力割り当てを超えるとスイッチはポートをシャットダウンします。 • log : ポリシングはイネーブルで、リアルタイム電力消費が最大電力割り当てを超えるとスイッチが Syslog メッセージを生成します。 • none : ポリシングはディセーブルです。 |

| フィールド | 説明 |
|--------------|---|
| Oper Police | <p>ポリシング ステータス :</p> <ul style="list-style-type: none"> • errdisable : リアルタイム電力消費が最大電力割り当てを超えています。スイッチが PoE ポートをシャットダウンします。 • log : リアルタイム電力消費が最大電力割り当てを超えています。スイッチが Syslog メッセージを生成します。 • n/a : 装置検出がディセーブルで、電力が PoE ポートに適用されていないか、ポリシング アクションが設定されていません。 • ok : リアルタイム電力消費が最大電力割り当てより少ない状態です。 |
| Cutoff Power | ポートに割り当てられている最大電力です。リアルタイム電力消費がこの値を上回ると、スイッチは設定されたポリシング アクションを実行します。 |
| Oper Power | 受電デバイスのリアルタイム電力消費です。 |

⁴ 設定電力とは、手動で指定する電力、または CDP 電力ネゴシエーションまたは IEEE 分類を使用してスイッチが指定する電力（電力検知機能によってモニタされるリアルタイムの電力とは異なります）です。

関連トピック

[logging event power-inline-status](#) (28 ページ)

[power inline](#) (39 ページ)

show stack-power

電源スタックのStackPower スタックまたはスイッチに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show stack-power** コマンドを使用します。

show stack-power [*power-stack-name*]

構文の説明

power-stack-name (任意) 電源情報を表示する電源スタックの名前。名前は最大で 31 文字にできます。

コマンドモード

ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

このコマンドは、IP Base または IP Services イメージが実行されているスイッチ スタックでのみ使用できます。

負荷制限のためにスイッチがシャットダウンされた場合、**show stack-power** コマンドの出力には、シャットダウンされたネイバースイッチの MAC アドレスが含まれています。コマンド出力は、スイッチに供給するために十分な電力がない場合でも、スタック電力トポロジを示します。

例

次の例では、**show stack-power** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show stack-power
Power Stack      Stack   Stack   Total   Rsvd    Alloc   Unused   Num   Num
Name            Mode    Topolgy Pwr (W) Pwr (W) Pwr (W) Pwr (W) SW    PS
-----
Powerstack-1    SP-PS   Stndaln 715     509     190     16      1    1
```

関連トピック

- [mode \(電源スタックの設定\) \(30 ページ\)](#)
- [power-priority \(37 ページ\)](#)
- [stack-power \(107 ページ\)](#)

show system mtu

グローバル最大伝送ユニット (MTU)、またはスイッチに設定されている最大パケット サイズを表示するには、特権 EXEC モードで **show system mtu** コマンドを使用します。

show system mtu

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

MTU 値および MTU 値に影響を与えるスタック設定の詳細については、**system mtu** コマンドを参照してください。

例

次の例では、**show system mtu** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show system mtu
Global Ethernet MTU is 1500 bytes.
```

関連トピック

[system mtu](#) (114 ページ)

show wireless interface summary

ワイヤレス インターフェイスのステータスおよび設定を表示するには、**show wireless interfacesummary** 特権 EXEC コマンドを使用します。

show wireless interface summary

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|---------------------|----------------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 | 、、、、 このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン 次に、ワイヤレス インターフェイスの要約を表示する例を示します。

Switch# **show wireless interface summary**

speed

10/100/1000/2500/5000 Mbps ポートの速度を指定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **speed** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
speed {10|100|1000|2500|5000|auto} [{10|100|1000|2500|5000}]|nonegotiate}
no speed
```

構文の説明

| | |
|--------------------|--|
| 10 | ポートが 10 Mbps で稼働することを指定します。 |
| 100 | ポートが 100 Mbps で稼働することを指定します。 |
| 1000 | ポートが 1000 Mbps で稼働することを指定します。このオプションは、10/100/1000 Mb/s ポートでだけ有効になって表示されます。 |
| 2500 | ポートが 2500 Mbps で稼働することを指定します。このオプションは、マルチギガビット対応のイーサネット ポートでのみ有効であり、表示されます。 |
| 5000 | ポートが 5000 Mbps で稼働することを指定します。このオプションは、マルチギガビット対応のイーサネット ポートでのみ有効であり、表示されます。 |
| auto | 稼働時のポートの速度を、リンクのもう一方の終端のポートを基準にして自動的に検出します。 10 、 100 、 1000 、 1000 、 2500 キーワードまたは 5000 キーワードを auto キーワードとともに使用すると、ポートは指定した速度でのみ自動ネゴシエーションを実行します。 |
| nonegotiate | 自動ネゴシエーションをディセーブルにし、ポートは 1000 Mbps で稼働します。 |

コマンド デフォルト

デフォルトは **auto** です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|----------------------------|---|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |
| Cisco IOS XE Denali 16.3.1 | このコマンドが変更されました。 2500 と 5000 のキーワードが追加されました。これらのキーワードは、マルチギガビットイーサネットポート対応デバイスでのみ表示されます。 |

使用上のガイドライン 10 ギガビット イーサネット ポートでは速度を設定できません。

1000BASE-T Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールを除き、SFP モジュール ポートが自動ネゴシエーションをサポートしていないデバイスに接続されている場合は、ネゴシエートしないように (**nonegotiate**) 速度を設定できます。

新しいキーワードの **2500** および **5000** は、マルチギガビット (m-Gig) イーサネット対応デバイスでのみ表示されます。

速度が **auto** に設定されている場合、スイッチはもう一方のリンクの終端にあるデバイスと速度設定についてネゴシエートし、速度をネゴシエートされた値に強制的に設定します。デュプレックス設定はリンクの両端での設定が引き継がれますが、これにより、デュプレックス設定に矛盾が生じることがあります。

ラインの両端が自動ネゴシエーションをサポートしている場合、デフォルトの自動ネゴシエーション設定を使用することを強く推奨します。一方のインターフェイスでは自動ネゴシエーションをサポートし、もう一方の終端ではサポートしていない場合、サポートしている側には **auto** 設定を使用し、サポートしていない終端にはデュプレックスおよび速度を設定します。



注意 インターフェイス速度とデュプレックスモードの設定を変更すると、再設定中にインターフェイスがシャットダウンし、再びイネーブルになる場合があります。

スイッチの速度およびデュプレックスのパラメータの設定に関する注意事項は、このリリースに対応するソフトウェアコンフィギュレーションガイドの「Configuring Interface Characteristics」の章を参照してください。

show interfaces 特権 EXEC コマンドを使用して、設定を確認します。

例

次に、ポートの速度を 100 Mbps に設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# speed 100
```

次に、10 Mbps でだけポートが自動ネゴシエートするように設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# speed auto 10
```

次に、10 Mbps または 100 Mbps でだけポートが自動ネゴシエートするように設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# speed auto 10 100
```

関連トピック

[duplex](#) (10 ページ)

[show interfaces](#) (74 ページ)

stack-power

設定内容 電源スタックまたは電源スタックのスイッチに StackPower パラメータを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **stack power** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

stack-power {**stack** *power-stack-name*|**switch** *stack-member-number*}
no stack-power {**stack** *power-stack-name*|**switch** *stack-member-number*}

| | |
|-------|--|
| 構文の説明 | <p>stack <i>power-stack-name</i> 電源スタックの名前を指定します。名前は最大で 31 文字にできません。これらのキーワードの後に改行を入力すると、電源スタックコンフィギュレーションモードが開始されます。</p> <p>switch <i>stack-member-number</i> スタックのスイッチ番号 (1 ~ 4) を指定して、スイッチのスイッチ スタック電源コンフィギュレーションモードを開始します。</p> |
|-------|--|

コマンド デフォルト デフォルトはありません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|---------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン **stack-power stack power stack name** コマンドを入力すると、電源スタック コンフィギュレーションモードが開始され、次のコマンドが使用可能になります。

- **default** : コマンドをデフォルト設定に戻します。
- **exit** : ARP アクセスリスト コンフィギュレーション モードを終了します。
- **mode** : 電源スタックの電源モードを設定します。 **mode** コマンドを参照してください。
- **no** : コマンドを無効にするか、またはデフォルト設定に戻します。

StackPower に関係のないスイッチ番号を指定して **stack-power switch switch-number** コマンドを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

StackPower に関係するスイッチの番号を指定して **stack-power switch switch-number** コマンドを入力すると、スイッチ スタック電源コンフィギュレーションモードが開始され、次のコマンドが使用可能になります。

- **default** : コマンドをデフォルト設定に戻します。
- **exit** : スイッチ スタック電源コンフィギュレーションモードを終了します。
- **no** : コマンドを無効にするか、またはデフォルト設定に戻します。
- **power-priority** : スイッチとスイッチ ポートの電源プライオリティを設定します。 **power-priority** コマンドを参照してください。

- **stack-id name** : スイッチが属する電源スタックの名前を入力します。電源スタック ID を入力しない場合、スイッチはスタック パラメータを継承しません。名前は最大で 31 文字にできます。
- **standalone** : スイッチをスタンドアロン電源モードで動作させます。このモードに設定すると、両方の電源ポートがシャットダウンします。

例

次の例では、電源スタックに接続されたスイッチ 2 が電源プールから削除され、両方の電源ポートがシャットダウンされます。

```
Switch(config)# stack-power switch 2  
Switch(config-switch-stackpower) # standalone  
Switch(config-switch-stackpower) # exit
```

関連トピック

[mode \(電源スタックの設定\)](#) (30 ページ)

[power-priority](#) (37 ページ)

[show stack-power](#) (102 ページ)

switchport backup interface

Flex Link を設定するには、スイッチ スタックまたはスタンドアロンスイッチのレイヤ 2 インターフェイスで、インターフェイス コンフィギュレーション モードの **switchport backup interface** コマンドを使用します。Flex Link の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport backup interface interface-id [{mmu primary vlan vlan-id|multicast
fast-convergence|preemption {delay seconds|mode {bandwidth|forced|off}}|prefer vlan vlan-id}]
no switchport backup interface interface-id [{mmu primary vlan|multicast
fast-convergence|preemption {delay|mode}|prefer vlan}]
```

構文の説明

| | |
|------------------------------------|---|
| <i>interface-id</i> | 物理インターフェイスの ID。 |
| mmu | (任意) バックアップ インターフェイス ペアの MAC Move Update (MMU) を設定します。 |
| primary vlan <i>vlan-id</i> | (任意) プライマリ VLAN の VLAN ID です。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。 |
| multicast fast-convergence | (任意) バックアップ インターフェイスのマルチキャスト高速コンバージェンスを設定します。 |
| preemption | (任意) バックアップ インターフェイス ペアのプリエンブションスキームを設定します。 |
| delay <i>seconds</i> | プリエンブション遅延を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 300 秒です。デフォルト値は 35 秒です。 |
| mode | プリエンブション モードを指定します。 |
| bandwidth | より大きい帯域幅のインターフェイスを優先するように指定します。 |
| forced | アクティブ インターフェイスを優先するように指定します。 |
| off | バックアップからアクティブへのプリエンブションが発生しないことを指定します。 |
| prefer vlan <i>vlan-id</i> | (任意) VLAN が Flex Link ペアのバックアップ インターフェイスで実行されるように指定します。VLAN ID 範囲は 1 ~ 4094 です。 |

コマンド デフォルト

デフォルトは、Flex Link が定義されていません。プリエンブション モードはオフです。プリエンブションを行いません。プリエンブション遅延は 35 秒に設定されています。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|-----------------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

Flex Link 相互バックアップを提供するインターフェイスのペアです。Flex Link を設定すると、1つのリンクがプライマリ インターフェイスとして機能してトラフィックを転送し、もう一方のインターフェイスがスタンバイ モードになり、プライマリ リンクがシャットダウンされた場合に転送を開始できるように準備されます。設定されるインターフェイスはアクティブリンクと呼ばれ、指定されたインターフェイスはバックアップリンクとして識別されます。この機能はスパンニングツリープロトコル (STP) の代わりに提供され、ユーザがSTPをオフにしても基本的なリンク冗長性を維持できます。

このコマンドは、レイヤ2 インターフェイスに対してだけ使用可能です。

任意のアクティブ リンクに対して設定可能な Flex Link バックアップリンクは1つだけで、アクティブ インターフェイスとは異なるインターフェイスでなければなりません。

- インターフェイスが所属できる Flex Link ペアは1つだけです。インターフェイスは、1つだけのアクティブ リンクのバックアップリンクにすることができます。アクティブ リンクは別の Flex Link ペアに属することはできません。
- バックアップリンクはアクティブ リンクと同じタイプ (たとえばファストイーサネットやギガビットイーサネット) でなくてもかまいません。ただし、スタンバイリンクがトラフィック転送を開始した場合にループが発生したり動作が変更したりしないように、両方の Flex Link を同様の特性で設定する必要があります。
- どちらのリンクも、EtherChannelに属するポートには設定できません。ただし、2つのポートチャンネル (EtherChannel 論理インターフェイス) を Flex Link として設定でき、ポートチャンネルおよび物理インターフェイスを Flex Link として設定して、ポートチャンネルか物理インターフェイスのどちらかをアクティブリンクにすることができます。
- STP がスイッチに設定されている場合、Flex Link はすべての有効な VLAN で STP に参加しません。STP が動作していない場合、設定されているトポロジでループが発生していないことを確認してください。

次の例では、2つのインターフェイスを Flex Link として設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(conf-if)# switchport backup interface gigabitethernet1/0/2
Switch(conf-if)# end
```

次の例では、常にバックアップをプリエンプトするようにギガビットイーサネットインターフェイスを設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(conf-if)# switchport backup interface gigabitethernet1/0/2 preempton forced
Switch(conf-if)# end
```

次の例では、ギガビットイーサネットインターフェイスのプリエンプション遅延時間を設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(conf-if)# switchport backup interface gigabitethernet1/0/2 preempton delay 150
Switch(conf-if)# end
```

次の例では、MMUプライマリVLANとしてギガビットイーサネットインターフェイスを設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(conf)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(conf-if)# switchport backup interface gigabitethernet1/0/2 mmu primary vlan 1021
Switch(conf-if)# end
```

設定を確認するには、**show interfaces switchport backup** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

[show interfaces switchport](#) (82 ページ)

switchport block

不明のマルチキャストまたはユニキャストパケットが転送されないようにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport block** コマンドを使用します。不明のマルチキャストまたはユニキャストパケットの転送を許可するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport block {multicast|unicast}
no switchport block {multicast|unicast}

構文の説明

multicast 不明のマルチキャストトラフィックがブロックされるように指定します。

(注) 純粋なレイヤ 2 マルチキャストトラフィックだけがブロックされます。ヘッダーに IPv4 または IPv6 の情報を含むマルチキャストパケットはブロックされません。

unicast 不明のユニキャストトラフィックがブロックされるように指定します。

コマンド デフォルト

不明なマルチキャストおよびユニキャストトラフィックはブロックされていません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

デフォルトでは、不明な MAC アドレスを持つすべてのトラフィックがすべてのポートに送信されます。保護ポートまたは非保護ポート上の不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックをブロックすることができます。不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックが保護ポートでブロックされない場合、セキュリティに問題のある場合があります。

マルチキャストトラフィックでは、ポートブロッキング機能は純粋なレイヤ 2 パケットだけをブロックします。ヘッダーに IPv4 または IPv6 の情報を含むマルチキャストパケットはブロックされません。

不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックのブロックは、保護ポート上で自動的にイネーブルにはなりません。明示的に設定する必要があります。

パケットのブロックに関する情報は、このリリースに対応するソフトウェアコンフィギュレーションガイドを参照してください。

次の例では、インターフェイス上で不明なユニキャストトラフィックをブロックする方法を示します。

```
Switch(config-if)# switchport block unicast
```


設定を確認するには、**show interfaces *interface-id*switchport** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

[show interfaces switchport](#) (82 ページ)

system mtu

ギガビットイーサネットおよび10ギガビットイーサネットポートのスイッチドパケットのグローバル最大パケットサイズまたはMTUサイズを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **system mtu** コマンドを使用します。グローバルMTU値をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system mtu bytes
no system mtu

構文の説明

bytes グローバルMTUのサイズ（バイト単位）。指定できる範囲は、1500～9198バイトです。デフォルトは1500バイトです。

コマンドデフォルト

すべてのポートのデフォルトのMTUサイズは1500バイトです。

コマンドモード

グローバルコンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

設定を確認するには、**show system mtu** 特権 EXEC コマンドを入力します。
 スイッチはインターフェイス単位ではMTUをサポートしていません。
 特定のインターフェイスタイプで許容範囲外の値を入力した場合、その値は受け入れられません。

例

次に、グローバルシステムMTUサイズを6000バイトに設定する例を示します。

```
Switch(config)# system mtu 6000
Global Ethernet MTU is set to 6000 bytes.
Note: this is the Ethernet payload size, not the total
Ethernet frame size, which includes the Ethernet
header/trailer and possibly other tags, such as ISL or
802.1q tags.
```

関連トピック

[show system mtu](#) (103 ページ)

voice-signalingvlan (ネットワークポリシーコンフィギュレーション)

音声シグナリング アプリケーション タイプのネットワークポリシー プロファイルを作成するには、ネットワークポリシー コンフィギュレーション モードで **voice-signaling vlan** コマンドを使用します。ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice-signaling vlan {vlan-id [{cos cos-value|dscp dscp-value}][dot1p [{cos l2-priority|dscp dscp}]]none|untagged}
```

構文の説明

| | |
|------------------------|---|
| vlan-id | (任意) 音声トラフィック用の VLAN。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。 |
| cos cos-value | (任意) 設定された VLAN に対するレイヤ 2 プライオリティ Class of Service (CoS) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。デフォルト値は 5 です。 |
| dscp dscp-value | (任意) 設定された VLAN に対する Diffserv コードポイント (DSCP) 値を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト値は 46 です。 |
| dot1p | (任意) IEEE 802.1p プライオリティ タギングおよび VLAN 0 (ネイティブ VLAN) を使用するように電話を設定します。 |
| none | (任意) 音声 VLAN に関して IP Phone に指示しません。電話は電話のキーパッドから入力された設定を使用します。 |
| untagged | (任意) タグなしの音声トラフィックを送信するように電話を設定します。これが電話のデフォルトになります。 |

コマンドデフォルト

音声シグナリング アプリケーション タイプのネットワークポリシー プロファイルは定義されていません。

デフォルトの CoS 値は、5 です。

デフォルトの DSCP 値は、46 です。

デフォルトのタギング モードは、untagged です。

コマンドモード

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

プロファイルを作成し、ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**network-policy profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

voice-signaling アプリケーション タイプは、音声メディアと異なる音声シグナリング用のポリシーを必要とするネットワーク トポロジ用です。すべての同じネットワーク ポリシーが **voice policy TLV** にアドバタイズされたポリシーとして適用される場合、このアプリケーションタイプはアドバタイズしないでください。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードの場合、VLAN、Class of Service (CoS)、Diffserv コード ポイント (DSCP) の値、およびタギング モードを指定することで、音声シグナリング用のプロファイルを作成することができます。

これらのプロファイルの属性は、Link Layer Discovery Protocol for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) の **network-policy Time Length Value (TLV)** に含まれます。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードから特権 EXEC モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。

次の例では、プライオリティ 2 の CoS を持つ VLAN 200 用の音声シグナリングを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# network-policy profile 1
Switch(config-network-policy)# voice-signaling vlan 200 cos 2
```

次の例では、DSCP 値 45 を持つ VLAN 400 用の音声シグナリングを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# network-policy profile 1
Switch(config-network-policy)# voice-signaling vlan 400 dscp 45
```

次の例では、プライオリティ タギングを持つネイティブ VLAN 用の音声シグナリングを設定する方法を示します。

```
Switch(config-network-policy)# voice-signaling vlan dot1p cos 4
```

関連トピック

[network-policy](#) (32 ページ)

[network-policy profile](#) (グローバル コンフィギュレーション) (33 ページ)

[voice vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (117 ページ)

voicevlan (ネットワークポリシーコンフィギュレーション)

音声アプリケーション タイプのネットワークポリシー プロファイルを作成するには、ネットワークポリシー コンフィギュレーション モードで **voice vlan** コマンドを使用します。ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice vlan {vlan-id [{cos cos-value|dscp dscp-value}][dot1p [{cos l2-priority|dscp dscp}]]|none|untagged}
```

構文の説明

| | |
|------------------------|---|
| vlan-id | (任意) 音声トラフィック用の VLAN。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。 |
| cos cos-value | (任意) 設定された VLAN に対するレイヤ 2 プライオリティ Class of Service (CoS) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。デフォルト値は 5 です。 |
| dscp dscp-value | (任意) 設定された VLAN に対する Diffserv コードポイント (DSCP) 値を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト値は 46 です。 |
| dot1p | (任意) IEEE 802.1p プライオリティ タギングおよび VLAN 0 (ネイティブ VLAN) を使用するように電話を設定します。 |
| none | (任意) 音声 VLAN に関して IP Phone に指示しません。電話は電話のキーパッドから入力された設定を使用します。 |
| untagged | (任意) タグなしの音声トラフィックを送信するように電話を設定します。これが電話のデフォルトになります。 |

コマンド デフォルト

音声アプリケーション タイプのネットワークポリシー プロファイルは定義されていません。
 デフォルトの CoS 値は、5 です。
 デフォルトの DSCP 値は、46 です。
 デフォルトのタギング モードは、untagged です。

コマンド モード

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

プロファイルを作成し、ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**network-policy profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

voice アプリケーションタイプは IP Phone 専用であり、対話形式の音声サービスをサポートするデバイスに似ています。通常、これらのデバイスは、展開を容易に行えるようにし、データアプリケーションから隔離してセキュリティを強化するために、別個の VLAN に配置されます。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードの場合、VLAN、Class of Service (CoS)、Diffserv コード ポイント (DSCP) の値、およびタギング モードを指定することで、音声用のプロファイルを作成することができます。

これらのプロファイルの属性は、Link Layer Discovery Protocol for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) の network-policy Time Length Value (TLV) に含まれます。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードから特権 EXEC モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。

次の例では、プライオリティ 4 の CoS を持つ VLAN 100 用の音声アプリケーションタイプを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# network-policy profile 1
Switch(config-network-policy)# voice vlan 100 cos 4
```

次の例では、DSCP 値 34 を持つ VLAN 100 用の音声アプリケーションタイプを設定する方法を示します。

```
Switch(config)# network-policy profile 1
Switch(config-network-policy)# voice vlan 100 dscp 34
```

次の例では、プライオリティ タギングを持つネイティブ VLAN 用の音声アプリケーションタイプを設定する方法を示します。

```
Switch(config-network-policy)# voice vlan dot1p cos 4
```

関連トピック

[network-policy](#) (32 ページ)

[network-policy profile \(グローバル コンフィギュレーション\)](#) (33 ページ)

[voice-signaling vlan \(ネットワークポリシー コンフィギュレーション\)](#) (115 ページ)

wireless ap-manager interface

ワイヤレス AP マネージャ インターフェイスを設定するには、**wireless ap-manager interface** コマンドを使用します。

wireless ap-manager interface {**TenGigabitEthernet** *interface-number*|**Vlan** *interface-number*}

| 構文の説明 | TenGigabitEthernet <i>interface-name</i> 10 ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。値の範囲は 0 ~ 9 です。 | | | | |
|---------------------|---|------|------|---------------------|-----------------|
| | Vlan <i>interface-name</i> VLAN を設定します。値の範囲は 1 ~ 4095 です。 | | | | |
| コマンド デフォルト | なし | | | | |
| コマンド モード | グローバル コンフィギュレーション | | | | |
| コマンド履歴 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE 3.2SE、</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table> | リリース | 変更内容 | Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 |
| リリース | 変更内容 | | | | |
| Cisco IOS XE 3.2SE、 | このコマンドが導入されました。 | | | | |

次の例は、ワイヤレス AP-manager を設定する方法を示しています。

```
Switch# wireless ap-manager interface vlan
<1-4095> Vlan interface number
```

次の例は、ワイヤレス AP-manager を設定する方法を示しています。

```
Switch# #wireless ap-manager interface vlan 10
```

wireless exclusionlist

除外リスト エントリを管理するには、**wireless exclusionlist** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。除外リスト エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

wireless exclusionlist *mac-addr* **description** *description*
no wireless exclusionlist *mac-addr*

構文の説明

mac-addr ローカル除外リスト エントリの MAC アドレス。

description 説 除外リスト エントリの説明を指定します。
 明

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|------|------|
|------|------|

Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。

次に、MAC アドレス xxx.xxx.xxx のローカル除外リスト エントリを作成する例を示します。

```
Switch# wireless exclusionlist xxx.xxx.xxx
```

次に、MAC アドレス xxx.xxx.xxx のローカル除外リスト エントリの説明を作成する例を示します。

```
Switch# wireless exclusionlist xxx.xxx.xxx description sample
```


wireless linktest

リンク テスト フレーム サイズおよび送信するフレーム数を設定するには、**wireless linktest** コマンドを使用します。

wireless linktest {**frame-size** *size*|**number-of-frames** *value*}

| | | |
|------------|--|---|
| 構文の説明 | frame-size <i>size</i> | 各パケットのリンク テスト フレームのサイズを指定します。値の範囲は 1 ～ 1400 です。 |
| | number-of-frames <i>value</i> | リンク テストに送信するフレーム数を指定します。値の範囲は 1 ～ 100 です。 |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | グローバル コンフィギュレーション | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。 | |

次に、各フレーム リンクのテストフレームのサイズを 10 に設定する例を示します。

```
Switch# wireless linktest frame-size 10
```

wireless management interface

インターフェイスのワイヤレス管理パラメータを設定するには、**wireless management interface** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイスのワイヤレス管理パラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
wireless management interface interface-name {TenGigabitEthernet interface-name|Vlan interface-name}
no wireless management interface
```

| | | |
|-------|--|---|
| 構文の説明 | <i>interface-name</i> | インターフェイス番号 |
| | TenGigabitEthernet <i>interface-name</i> | 10 ギガビットイーサネット インターフェイス番号。値の範囲は 0 ~ 9 です。 |
| | Vlan <i>interface-name</i> | VLAN インターフェイス番号。値の範囲は 1 ~ 4095 です。 |

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|---------------------|----------------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE、 | 、、、、 このコマンドが導入されました。 |

次に、ワイヤレス インターフェイスに VLAN 10 を設定する例を示します。

```
Switch# wireless management interface Vlan 10
```

wireless peer-blocking forward-upstream

アップストリーム転送のピアツーピア ブロッキングを設定するには、**wireless peer-blocking forward-upstream** コマンドを使用します。ピアツーピア ブロッキングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
wireless peer-blocking forward-upstream interface {GigabitEthernet interface-number
TenGigabitEthernet interface-number}
no wireless peer-blocking forward-upstream {GigabitEthernet interface-number TenGigabitEthernet
interface-number}
```

| 構文の説明 | GigabitEthernet interface ギガビット イーサネット インターフェイス番号。値の範囲は 0 ～ 9 です。 | | | | |
|------------------------|---|------|------|------------------------|-----------------|
| | TenGigabitEthernet interface 10 ギガビット イーサネット インターフェイス番号。値の範囲は 0 ～ 9 です。 | | | | |
| コマンド デフォルト | なし | | | | |
| コマンド モード | グローバル コンフィギュレーション | | | | |
| コマンド履歴 | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="423 1016 532 1041">リリース</th> <th data-bbox="781 1016 889 1041">変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="423 1073 597 1098">Cisco IOS XE 3.2SE、、、、</td> <td data-bbox="781 1073 1166 1098">このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table> | リリース | 変更内容 | Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 |
| リリース | 変更内容 | | | | |
| Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 | このコマンドが導入されました。 | | | | |

次に、インターフェイスの 10 ギガビット イーサネット インターフェイスについてピアツーピア ブロッキングを設定する例を示します。

```
Switch(config)# wireless peer-blocking forward-upstream TenGigabitEthernet 1/1/4
```

